明治四十二年八月二十日發行

（明治二十年十一月本會創立）

婦人衛生雜誌

第二百三十七號

第三種郵便物認可明治廿六年四月四日
每月一回二十日發行
内務省許可明治二十一年二月二十八日

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌

第貳百參拾七號目次

◉會　告◉

●會費未納の御方は會計整理の困難を察せられ本年十二月迄の前金相添へ此際本會事務所へ宛御送金被下度候

●前金切れの御方は此際御送金被下度候也

本會の振替貯金口座番號東京一〇六〇〇番に付右番號を御承知の上所在の郵便局に於て該用紙御請取被下指定の欄内へ送金高、拂込人住所氏名、及び加入者住所氏名（即ち本會）等を記入し同時に金圓御拂込相成候はゞ直ちに本會へ送金無料にて相屆き且つ途中紛失及び盜難の憂ひも無之候又該用紙裏面に通信文欄有之候間他に用事ある節は何なりとも御記入差支無之候、右の如く拂込人に取りては安全、輕便、經濟等一擧にして種々の利益ある便法に付自今該法を御利用被下度此段會員諸姉に稟告致候也

○〔六月發行の本誌〕には會員諸姉の御便宜を謀り振替貯金拂込用紙を添付致置候間そを御用ゐ被下度候

○爲替御送附の節は本會事務所宛にて麴町區富士見町郵便局へ御振出しを乞ふ

私立大日本婦人衛生會 米澤支會規則

第一條 當會は私立大日本婦人衛生會米澤支會と稱し衛生上の研究を目的とし互に智識を交換し社會の幸福を增進するにあり

第二條 支會事務所は當時假に免許町一三六九番地豬股方に設く

第三條 當支會に會長一名副會長一名幹事五名を置く其任期は各一年とす

第四條 每月一回(第二日曜午後一時より四時迄)講話會を開き每年五月總會をなし役員改選庶務會計等の報告をなす

第五條 入會は會員の紹介を經て宿所姓名に會費を添へ事務所へ申込又退會せんとする者は其旨事務所に屆出べし

但し既納の會費は返附せず

第六條 當支會の會費は左の三種として特別會員每月金參拾錢通常會員甲每月金拾五錢乙每月金五錢前納するものとす

但會費拾五錢以上納むる者には本會雜誌を配附す

第七條 會費は雜誌料として本會へ納め一部は支會經費に充て殘餘は銀行へ貯蓄して支會事業の資金となす

第八條 會員及員外篤志者より金品の寄贈あるときは役員協議の上特待員又は贊成員となすべし

第九條 講話の節は汎く婦人の傍聽を許す

第十條 支會々員は質素を旨とし集會の際は可成木綿服を著用する事

第十一條 特に支會則に揭げさるものは本部の會則を準用す

事務所米澤市免許町一三六九

米澤支會

私立大日本婦人衛生會 新潟支會規則

●第一條 本會は大日本婦人衛生會に屬し婦人衛生の研究を目的とし兼ねて一般慈善事業を爲すにあり ●第二條 當支會の會費は左の六種とす終身會員一時限り出金貳拾五圓特別會員每月金參拾錢通常會員同金貳拾錢支會員甲每月金拾錢乙同金五錢 ●第三條 入會せんとするものは役員に申出て其承認を得べし ●第四條 會費每月拾五錢以上を納むるものには本會衛生雜誌を配布す ●第五條 會費は雜誌料として一部を本會へ納め殘金は銀行へ貯蓄して衛生慈善資金とす ●第六條 支會には會長一名副會長一名評議員十五名幹事五名理事一名を置く會長副會長は總會に於て公撰し評議員幹事は會長之を撰任す各役員の任期は一ケ年とし再撰するを得役員は總て無給とす ●第七條 支會は每月六日通常會を開き衛生及び慈善に關する演說をなすべし ●第八條 每年一月總會を開き支會の要務を執行す ●第九條 本會は每年春期懇親會を催し時宜によりては慈善販賣店慈善演藝會等を開くことあるべし ●第十條 天災事變に際し慈善救濟を要する場合に於ては特に會員中の有志者より物品の寄贈を募ることあるべし會員外の篤志者より臨時金品の寄附あるときは役員の協議を以て特待員又は贊成員となすべし ●第十一條 一般慈善事業の贊助天災事變の救濟の事務は役員會の決議によりて實施するものとす ●第十二條 支會々員は服裝其他を質素にし集會の際は可成く綿服を著用すべし ●第十三條 特に本規則に揭げざるものは私立大日本婦人衛生會の規則を準用す

明治二十九年四月創立

事務所新潟市本町通十三番戸中村しげ子方

新潟支會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんを皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずといへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相尋て起り婦人社會も漸く其の面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演說談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して册子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす玆に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月　首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會會員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込まるべし入會者には會員章を交付す（交付手續卷末に詳なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に報知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる節は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受ることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉じ皇族の妃殿下に願出るものとす●第十條　本會に左の役員を置く會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員二十五名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命ず但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす滿期再選することを得若し任期中缺員を生ずるときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす集會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二同會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演說談話を囑託し會員をして謹意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演說等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演說等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て會計の收支決算並に庶務の概要會員の增減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　會計の收支は總て會計擔任の幹事檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りの會員を置くことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべきを以て其實費を支會より本會に送付すべし支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其狀況を本會に報告すべし

●雜件

第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金圓若くは書籍物品等を本會に寄贈する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を贈り寄贈者の姓名及品目を簿册に登錄し尚本會雜誌を以て報告すべし●第卅二條　會費金は受領證を交付すべしと雖も地方會員にして小爲替又は郵券にて納むるものは受領證送費として別に返信料を添へらるべし（郵券送一割增）●第卅三條　會費は東京府下に限り毎月領收人を差出すべし地方會員は總て前金とし小爲替にて本會事務所々在の郵便局（麴町區富士見町郵便取扱所宛）振出しあるべし●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市麴町區富士見町二丁目卅二番地

私立大日本婦人衛生會

○役員姓名

總裁 東伏見宮依仁親王妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

(いろは順)

幹事 鳩山春子
同 羽田三緒子
同 岡田德子
同 高木鎌子
同 山本多擁子
同 松平芳子
同 三浦敬子
評議員 石川貞子
同 岩下ゆか子
同 濱田捨子
同 長谷川仲子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 西升子
同 土肥多藝子
同 緒方悅子
同 岡山とし子
同 小川孝子
同 男爵夫人 加藤鈴子
同 片山龜子
同 吉武輝枝子
同 丹波貞子
同 高橋孝子
評議員 田村きよ子
同 男爵夫人 南部限子
同 中濱芳子
同 山口貞子
同 子爵夫人 松井正子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 宮本榮子
同 宮下咲子

●支會、新潟、山形、宇都宮、高崎、米澤

本會特別賛成員(いろは順)

醫學博士 入澤達吉君
理學博士 石川千代松君
醫學士 石原久君
醫學士 石原喜久太郎君
理學博士 飯島魁君
ドクトル 飯盛挺造君
醫學博士 伊藤隼三君
ドクトル 伊澤信平君
醫學博士 伊東祐彦君
色川圀士君
岩井禎三君
藥學士 石津利作君
醫學士 磐瀬雄一君
長谷川泰君
法學博士 鳩山和夫君
萩原淵四郎君
醫學博士 林春雄君
原胤昭君
醫學士 橋本左武郎君
醫學博士 濱田玄達君
男爵 濱尾新君
醫學博士 芳賀榮二郎君
西田敬止君
ドクトル 西山信光君
本田增次郎君
醫學士 鳥居春洋君
醫學博士 土肥慶藏君
醫學博士 遠山椿吉君
醫學博士 大澤謙二君
醫學士 大野豐太君
醫學士 大西秀治君
子爵 小笠原長生君
ドクトル 小此木信六郎君
醫學博士 岡田榮吉君
醫學博士 岡田和一郎君
恩田重信君
醫學博士 緒方正規君
醫學博士 大澤岳太郎君
醫學士 渡邊房吉君
醫學博士 加藤照麿君
法學博士 男爵 加藤弘之君
醫學士 河野衛君
醫學博士 河本重次郎君
醫學博士 金杉英五郎君
醫學博士 片山國嘉君
醫學士 賀古鶴所君
醫學士 松田龜一郎君
醫學士 唐澤光德君
醫學士 甲野棐君
醫學士 米山彥郎君
横井忠國君
醫學博士 高橋順太郎君
男爵 高崎正風君
高嶺秀夫君
醫學士 高田畊安君
ドクトル 高山紀齋君
藥學博士 田原眞純君
醫學博士 田代義德君
醫學士 田村光顯君
醫學士 田村化三郎君
醫學士 竹中成憲君
藥學博士 丹波敬三君
法學博士 高木豐三君
醫學博士、男爵 高木兼寬君
理學博士 坪井正五郎君
醫學博士 土田卯三郎君
男爵 辻新次君
醫學博士 中濱東一郎君
醫學博士 長與稱吉君
藥學博士 長井長義君
男爵 南部襃男君
醫學博士 能勢靜太君
醫學博士 久保猪之吉君
醫學博士 栗本東明君
醫學士 栗本庸勝君
醫學博士 隈川宗雄君
醫學博士 吳秀三君
醫學博士 山田鐵造君
醫學士 山田弘倫君
醫學士 山根正次君
ドクトル 山上兼輔君
ドクトル 松山陽太郎君
丸山長四郎君
ドクトル 富士川游君
布施正顯君
男爵 後藤新平君
醫學士 古川榮君
小高眞造君
小西信八君
醫學士 寺田織尾君
醫學士 寺田豐作君
寺田勇吉君
醫學博士 朝倉文三君
子爵 秋元興朝君
足立寬君
ドクトル 朝山義六君
醫學士 淺田決君
醫學博士 佐藤達次郎君
醫學博士 佐々木政吉君
醫學博士 榊順二郎君
醫學博士 榊保三郎君
醫學博士 櫻井恒次郎君
醫學博士 佐藤三吉君
齋藤清文君
醫學士 笹川三男三君
醫學士 櫻井郁二郎君
ドクトル 佐藤運雄君
醫學士 佐藤德齊君
醫學士 澤崎寬制君
ドクトル 佐伯理一郎君
醫學博士 木下正中君
醫學博士 桐淵鏡次君
醫學博士 木村德衞君
醫學博士 北島多一君
醫學博士 北里柴三郎君
醫學士 北村精造君
醫學博士 北川乙治郎君
ドクトル 菊池循一君
醫學博士 三輪信太郎君
醫學博士 宮本叔君
宮本仲君
宮川保全君
理學博士 箕作佳吉君
水原漸君
醫學博士 三宅秀君
醫學博士 三浦謹之助君
醫學博士 三島通良君
醫學博士 三浦守治君
島田三郎君
ドクトル 志村誠麿君
醫學博士 島村俊一君
ドクトル 日高昂君
醫學博士 弘田長君
伯爵 土方久元君
醫學士 百瀨玄溪君
醫學士 森田正馬君
文學醫學博士 森林太郎君
醫學士 澄川德君
ドクトル 須田卓爾君

十九世紀初葉の避病院

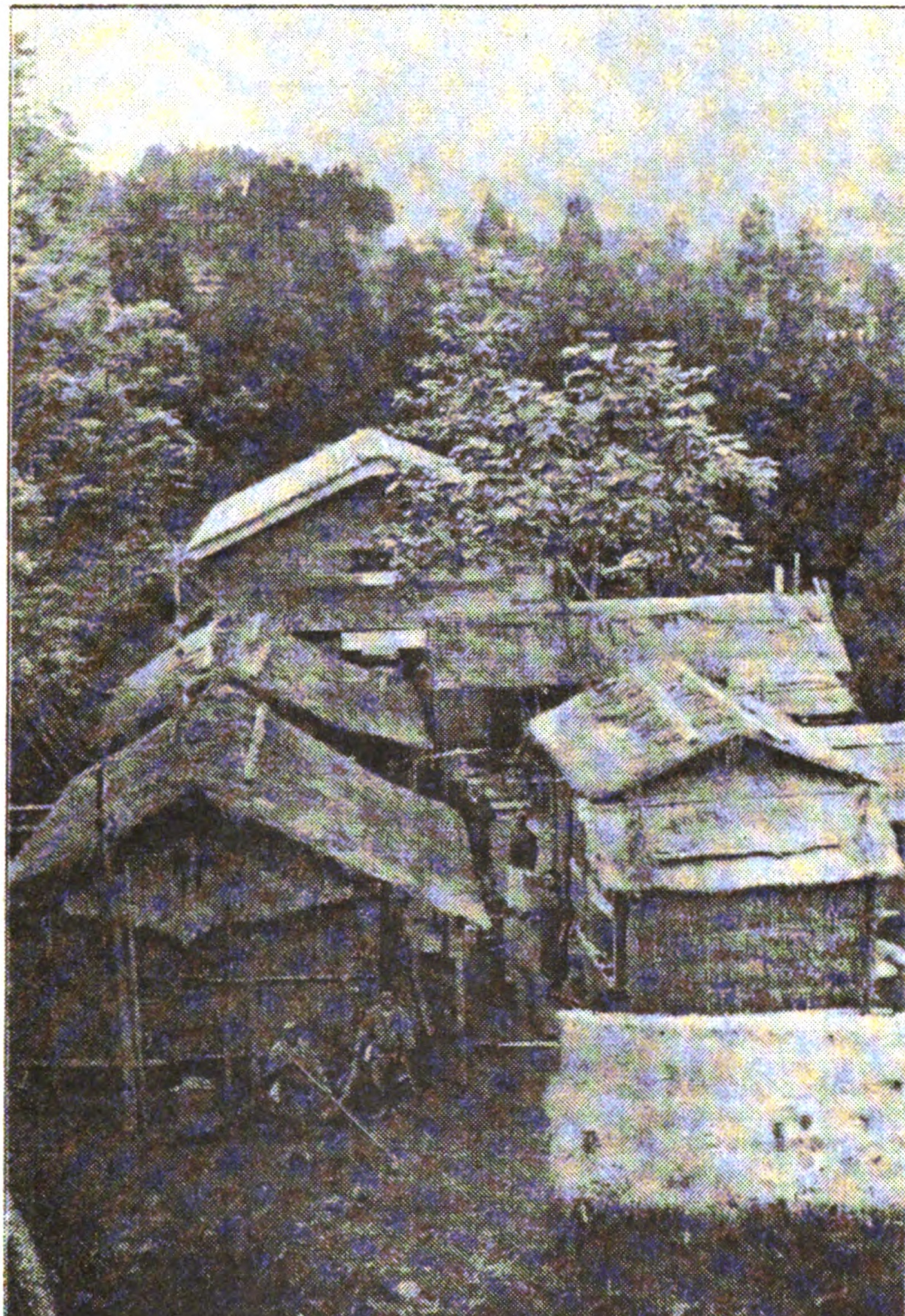


歐羅巴に於ける約八十年前の防疫

（千八百三十一年虎列剌に對する維納官廳の施設）

奥より、病室、看護室、炊事室、消毒夫室、物置場、消毒所、事務室及消毒竈

（寄書欄參照）



新潟縣浦田村傳染病院

（明治三十年九月建設）

本山捨五郎寄贈

講演

脊髓の話

醫學士　久野正太郎

今日御招に預りまして、此壇上に立ちますことは私の甚だ光榮とする所であります。之に就きましては一應御辭退申上げましたが、恩師岡田博士の御懇切なる御勸めもありまして、淺學を顧みず此壇上に立ちましたる次第でございます。脊髓と申しますと甚だ一方に偏しました無味乾燥の御話になりますが、暫時御清聽を願ひます。

私共が日常愉快に生活して居るのは、唯口に美味を食ひ、眼に美麗なる物を見、耳に美聲を聽くと云ふのも愉快に生活する一の原因ではございますけれども、又手足を自由に働らかすことを得、愉快に運動をなし、溫きを溫しと感じ、冷たきを冷たしと感じ、針の如き物で突かれても痛いと感じ、是等の感覺が少しも變りないと云ふことも愉快に生活する一つのことであらうと思ひます。眼に見、口に食ひ、耳に聽く等の働きも神經の働きではございますけれども、此の手足を自由に働かし得る所の運動並に感覺と云ふことも亦神經の働きでございます。併し運動及び感覺を司ると云ふことは、同一の神經纖維に依りて司られるではありませぬ。運動には運動を司る神經纖維があり、感覺には感覺を司る神經纖維がございます。而して軀幹並に四肢といふやうな所にある神經は總て脊髓を通過するのであります。脊髓に於て感覺を司る纖維と、運動を司る纖維とはそれ／＼一定せる道を通つて居ります。此の話をする前に脊髓の構造を簡單に申上げます。

脊髓は神經中樞の一部分でございまして、脊柱管と申します脊椎骨の相依りてなす所の孔の内に位して居ります。其の形はと申しますと圓柱索狀（圖竝に標本を示す）をなして居ります。之は脊髓を横斷したものでございます。斯う云ふやうに楕圓形をして居ります脊髓は上は延髓に連つて始まり下は腰椎の高さにて終ります、段々細くなつて終るのであります、脊髓に頸髓、胸髓、腰髓、薦骨髓を區別します。脊髓は三つの膜に掩はれて居る、即ち軟膜、蜘蛛膜硬膜と云ふものに掩はれて居る。硬膜と脊柱管との間は密接しては居りませぬで、幾らか空隙を成して居るのであります。それでありますから、脊骨に傴僂と云ふ、カリエスが出來ても脊髓が壓迫されるやうなことはないのであります。是は脊髓の腦の方に繋がつた所を縱に切つた圖でございます。脊髓は總ての所に於て太さが同じでございませぬで、全柱の間、上下二ヶ所に太くなつて居る所があります。さうして上の方は上肢に至る神經の出る所、下の方は下肢に至る神經の出る所であります。其脊髓には前後左右同じく二つ宛三十一對の神經根が出て居ります。其前のものを前根、後のものを後根と申して居ります。それから尚ほ脊髓の横斷したものを御覽になりますと（圖を示す）是は染たのでございますけれどもＨ字のやうな形をして、周圍が白く中が黑くなつて居ります。中の黑いのを灰白質、其周圍の色の白い所を白質と申して居ります。（圖を描きて示す）丁度Ｈと云ふ字の格好で、中が灰白質其周圍が白質でございます。此形は上から終ひまで同じではありませぬで、場所に依て形が違ふ。

脊髓には前後に二つの溝がありまして、左右兩半に分たれて只其中部に於て連絡して居る。尚ほ脊髓の中央に一つの細い孔があいて居ります、之を正中管と申しまして、ズッと腦へ連絡してるものであります。それで尚ほ白質を詳しく區別しますると、前索後索、側索と三つに區別します。尚ほ前索に錐狀體前索と前索原束とを側索に錐體側索と小腦側索と側

索原索とガワース氏索とを後索にゴール氏索とブルダウハー氏索を區別して居ります。それで脊髄の官能は何々であるかと申しますに、運動、感覺の二つを司るもの丶外に反射作用を有して居ります。反射とは自分の意思に寄らずして、運動を行ふ働きを申します。例へて見まするに睡眠して居る時手足を針にて輕く刺しますと之を避けんとして手足を動かしますが是れは自身の意思ではありませぬ、自然に動かすやうになつて參るので、腦の方の働きは靜止して居るに拘はらず、脊髄の方が起きて居つて、脊髄が自己の働きを現はすのであります、其外に尚ほ脊髄には二三の中樞があります。

それで運動を司どる方の神經は脊髄の如何なる部分を通るかと申しますと、神經中樞に於ける、運動神經の通る道を錐體道と申します。これは左右の大腦から出まして延髄へ參りまするとは、其大部分のものが此所で交叉をして反對側の脊髄側索中へ入りまして錐體側索道を作ります。それからアトの僅かの部分は交叉を致しませぬ、延髄で交叉をせずに直ぐに同側脊髄前索中に入りて錐體前索道を作ります。それから兩錐體道の纖維は前角の處へ來まして、此所にある神經細胞に連絡致します。それ故に大腦より脊髄灰白質の前角まで參るのを中樞性の運動纖維と申します。前角以後のものは此の前角の細胞から出る纖維は、前根を通つて末梢の筋肉へ參つて居ります。之を末梢性の神經纖維と申します。

感覺を司る方はどうかと申しますと、之も同じく末梢性感覺神經纖維、中樞性感覺神經纖維の二つがありまして、末梢から致しまして——末梢と申しますと身體の外表にあります感覺を司る機關がありまして、之れよりして神經纖維は椎間神經節と云ふ所に參ります。それから纖維が又後根を通りまして、脊髄の中に入るのであります。脊髄の中へ入りますと互に別れて種々の道を通るのであります。其一は後根から致しまして直ぐに後索へ入つて參りまして、それから上に昇つて腦へ行くのでございます。第二

のものは、右の方のものなれば右の方の後根から參りまして、灰白質の後角を通つて後角の中におります所の中樞性の神經細胞に出合ひまして、其細胞から出ます所の纖維が反對側へ移りまして、此側の側索原束を通つて上の方へ昇つて腦へ參ります。第三のものは後角を通つてクラーク氏の神經細胞と出合つて、その細胞の神經纖維が又同じ側の小腦側索と云ふ所へ通つて、それが段々上に昇つて腦へ行くのであります。第四のものも、後根から後角に入つてそれから他へ行かずに灰白質の前角におりまする運動神經の細胞に連なつて居る。是が卽ち先程申しました反射の方を主に司つて居るのであります。單に感覺と云ふも之に觸覺、痛覺、溫覺、冷覺を區別します、其他に部位神、位置神、運動神と云ふのが御座ります、部位神とは人をして閉眼して居らしめ或體部に觸れ何處なるかと答しむ。位置神とは兩脚を接近し若しくは離開し若しくは上下し其位置を告げしむ。運動神とは一種の被動的運動を行ひ如何なる方向に於てせしかを告げしむ。

それで此感覺神經に於きましても、一の纖維で以て痛覺、觸覺、溫覺、冷覺を同じやうに司つて居るかと云ふと、さうでなく、其神經纖維に依て働きが違つて居ります。第一に後索へ參りますのは主に觸覺を司つて居ります。第二のもの、卽ち後索へ入つて、反對側の側索原束の方へ入りますのは主に痛覺を司り竝に溫覺、冷覺を司つて居ります。第三は均重神と申しまして身體を眞直に立て居る時に其平均を保つ所の感覺を司つて居ります。第四は先程申しました反射を司つて居るものでございます。

尙ほ此脊髓には種々な病氣が起りますが、卽ち脊髓を橫斷しますと、其神經纖維が死滅します。之を續發變性と申して居りますが、神經細胞の纖維が切斷されますと神經の傳達方向に向つて死滅が起るのでございますから、續發變性の表はれた方向を知つて居りますれば、其纖維が何を司つて居るか、運動を司つて居る纖維であるか、感覺を司つて居る纖維

であるかと云ふことを知ることが出來るのでございます。今脊髓が或場所に於て横斷さるゝと致しますれば、其運動神經は腦から末梢の方へ向つて傳へて行くのでございますから運動神經なれば其横斷されたより以下の部分に於て痙攣性が起る。感覺神經纖維の方は、腦の方へ傳達するのでございますから横斷部以上の部分に痙攣性が起るのでございます。尙は說明を易く致しますと、例へば通行道路に於て、右左の通行が勵行されてあります所を一本の繩を引きまして通行を止めることしますと、右側の方は東から西へ行く、左側の方は西から東へ參ると致しますと、右側の方では繩より東は通行することは出來ても、繩より西の方は通行することが出來ない人が一人も通らない。左側はそれと反對で、西の方は人が通行致しますが、東の方からは誰も通行して居らない、丁度それと同樣に、神經纖維が傳達方向に向つて死んで用をすることが出來なくなるのであります。

それで脊髓のやうな細いものでございますから、脊髓の病氣と云ふと皆同じやうな病氣が起るかと申しますと、さう云ふ譯には參りませぬ、いろ〱違つた病氣が起ります。其冒さるゝ部分に依てそれ〲病氣も違ひます。何處が冒されて居るかと云ふことは、唯今申した痙攣性と云ふことを知り、それが何れの方向に向つて痙攣性が起つて居るか、生前の症狀はどう云ふものであつたか、それを比べて見て、其纖維がどんな働きを司つて居るものなるかを知ることが出來るのであります。今脊髓の後索に病氣があつたとしましたならば、此處は觸覺を司つて居る纖維が通つて居るのでありますから觸覺が冒されます。觸覺が冒されると觸つても觸つたかどうかと云ふことが分りませぬ。尙損傷を受けた所より以下に筋神、位置神と云ふものが犯されます爲めに運動失調なるものを起します、其排尿排便の障礙があります、脊髓癆と云ふ病氣は主に此の後索が犯され後で後根も犯さるゝものであります。又側索が冒さ

れると、錐體側索が冒されると、是れは腦から參りました運動神經纖維の通る所でございますから、下足の運動が出來なくなります、即ち運動麻痺を起します、側索原束が犯さるゝとそれより以下で反對側に痛覺、溫冷覺並に輕度の觸覺の障碍が起ります、前角を冒さるゝ病氣もございます。前角が犯されますと之より支配せらるゝ筋肉が萎縮に陷る、萎縮に陷つた爲に、手或は足と云ふものが物を動かすことが困難になります。小兒麻痺と云ふ病氣は此の前角の冒かされたものです、前根が破壞せらるゝときは略ぼ前角が犯されたると同一の障碍を起します、後角が破壞せられたるときは同じ側に感覺麻痺ありて多くは痛覺と溫冷覺とが侵されます、後根が破壞せらるゝと總ての感覺が侵され、痛覺、溫冷覺、觸覺筋神、位置神が全く脫失してしまいます、尙ほそれのみでなく、脊髓空洞症と申しまして、脊髓の或場所、殊に灰白質の中に多くの龜裂或は空洞を生ずる病氣がございます。さう云ふ病氣の場合は、其前索なら前索、或は後索とか、前角とかそれ〴〵冒さるる所に依て其症狀がいろ〳〵違つて參りまして、前角を冒されゝば其冒された部分に依て支配さる手足の運動の障碍が起り、後角の方が冒されゝば感覺に障碍が起ると云ふやうに、それ〴〵違つた病氣を起すのでございます。若し又脊髓の半分、右なら右左なら左半側が冒されゝばどうかと云ふと、例へば黴毒に罹りまして、さうして脊髓の半側丈が冒さるるやうなことがあつたらどうかと申しますと、其冒された所と同じ側の運動に障碍が起りまして、反對側の方には感覺の障碍が起ります。若し脊髓全徑が殘らず冒された時にはどうなるかと申しますと、それより以下の部分、例へて見ますと、胸髓或は腰髓の部分にて横斷されたとしますれば、其以下の部分の感覺運動の雙方が冒されて、觸つても分らない、感覺が無くなり、又運動をすることが出來なくなります。其他種々の疾患が御座いますが略しまして先づ其位のことに致します、甚だ御清聽を汚しました

後は標本を並べて置きますから御覧を願ひます。

叢談

果實と血液

A.S.生

今日吾々の血液を惡くする所の事柄は隨分いろ〳〵御座ります。まづ閉ぢこめた室の中に長く居つて、新しい空氣を吸ふことが少ないとか、種々の事情の爲に睡眠が足らないとか、氣を使ひながら、無理に仕事をしたり、急いで飮食したりする。かういふやうな今日の宜敷くない生活法は、一般に神經を害し血液を惡くすることで御座りますが、尙ほ一層重大な、害になる事柄は、食物の宜敷くない事であります。然るに多くの人は、左樣とは考へませぬ。却て今日の飮食物は、文明的で、學問上から割出して、至極上等に成つて居るから、吾々の先祖達の飮食物から見ると、遙に優等だと思つて居ります。これは一般にさう考へられるやうでありまするが、なかなか當にならぬ話であります。

勿論吾々の臺所や、料理の仕方などは、改良されて昔よりも結構に成りましたが、こゝに一つ大事な缺點が潛んで居ります、といふのは、吾々の食物には榮養鹽類が少なくなつて來たことで御座ります。これは人間の身體を造るには、大切な働のあるものでありまして、食物にも、人の身體の中にも在る所の鹽でありますが、榮養論では、この鑛物質には、餘り重きを置かないのでありまして、これは通常の食物の中に澤山あるものだと云ふ說明で滿足して居るのであります。見渡すところ、吾々の慣れ來りの食物、昔からの食物は、段々變つて參りまして、殊に西洋流が入込んでからは、肉類が非常に力を附けるものであるといふ評判を取つて、流行をなし、特に改良御臺所では、是非これに限るといふ有樣であり

まして、一口に申せば、多肉少菜であります。偖てこの肉といふものは、一體吾々の身體を補造るに必要な鹽類を十分持つて居るかといふに、決してさうでない。まづ鐵とか、石灰とか、燐とかいふやうなものに乏しい、即ち骨や齒を構造る成分も、血を良くする成分も足りないし、用ゐ耗らした神經を補ふに必要な成分も不足である。所でこれらの鹽類は色色な野菜の中に含まれて居るのでありますが、これが以前から見ると大分制限されて來たのであります。

吾々の先祖は、米麥などをそのまゝ、炒たり炊いたりして食べて居た。西洋でも近頃まで粗製のパンを食べて居た、これには糠が澤山有て、それもまた一つの榮養鹽を含んで居る譯でありますが、世が開けて來ると共に、舂いたり磨いだりすることが巧になつて、段々精げ方が念入りになり、碁石のやうに光つた御飯を食べるやうになつた、パンもその通り粗粉の黒パンが、極々細な粉で製つた綿のやうな白パンと云ふことに成りました。これはなるほど消化もよいでありませう、從つて榮養にも宜敷いでありませう、實際、蛋白質と澱粉質とは、その榮養の爲に善くなりましたが、榮養鹽類の方は不足になつて來たのであります。

甘味といふものは亦昔から人間の榮養に大關係を持て居るものであります。然し昔は、純粹の砂糖といふものは知られて居ない、また稍後になつても非常に高價なものであり、蜂蜜とても、さう澤山出來るものではないから、この甘味を取るには、他の方法に依らなければならなかつたので、果物とか、草木の根、例へば胡蘿蔔などから甘味の御馳走や、汁を造つたのであります。これには只砂糖があるばかりでなく、榮養鹽類を澤山に含んで居ります。處が七八十年前から、これが只甘蔗より採るばかりでなく甜菜などからも製られるやうになり、化學の助で以て純品が出來るといふやうになり、段々色々な技術や仕掛を用ゐて、砂糖から、これに混つて居る石灰

とか、燐といふやうな鹽酸を除き去つて、一般に用ゐられて居るやうな精品と成つて參つたのでありま す。でありますが、從てやはり吾々の食物の中の榮養鹽類が非常に減らされた譯であります。

吾々の先祖は、大に果實を珍重したもので、たゞ味が美いといふ點からばかりでなく、またこれを食料としたものであります。又果實は血を善くすると稱したものであります。これは今日でも大概さういふ考へを持つて居るのでありますが、どうかすると、生齧の學問から果物を價値ない物の如く云ひなすものもあるので御座ります。これは畢竟、化學的の驗查をして、その蛋白質が少くして、水が多いのを見て、直ぐ果物は榮養分に乏しいと言ひ出すのであります。おまけに、果物を食べて、偶々チーフス、赤痢、コーレラなどに罹つたといふので、生の果物を食べる事を禁じ、一切果物は煮て食べなければならぬと心得たのであります。尤もこの考は、時によりては正當なことでありますが、然りとて餘り目的を餘所にした、過ぎた話であります。

今日は西洋でも、その肉の食過ぎ、鑛物鹽類の不足で、食物が段々目的をはづれて來て、身體が弱くなるといふことを言ひ出して、いよ／＼野菜、特に果物を盛に用ゐるやうになりました。これは獨逸などよりも、英國や、米國の方が先驅をして居ります。

偖てこの果物は、如何樣にして食べればよいか、生がよいか、煮たがよいかと申せば、傳染病などの流行しない時には、孰でも宜敷い。只果物を煮るのには、砂糖を加へなければなりませんので、直に厭きてしまひますが、生のものは、さういふことが御座りませぬ。それで、やはり生のものが善いと云ふことになります。

我邦に於きましては、殆ど年中結構な果物を味はふことが出來まして、從來の梅、桃、李、梨、柿、葡萄、さては林檎、蜜柑より、近來は又北の方、北海道より、南、琉球、臺灣に至るまで、種々な西洋種のものが、美事に出來まして、バナヽ、パインアツ

プル、櫻桃、覆盆子の類まで、四季折々の珍らしく美くしく、味の好い果物の絶ゆることもなく、又物によりては、次の年まで貯へて置くことの出來るものも少なくないのであります。尙ほ干したり、砂糖漬にしたり、罐詰にして貯へることも出來ます。西洋種のものでは、特にバナヽ、棗、無花實などは、結構なもので、小兒などにも、砂糖の强い、高い菓子などを與へるよりも、幾何よいかわかりません。落花生、胡桃などは、少しく消化がわるいのでありますが、これも近頃西洋で製るヌッスブッテルなどいふやうな物にすれば、至極消化も良く、榮養に富で居るものとなります。

斯樣な次第でありますから、吾々は何時でも、望に隨つて果物を膳に供へることが出來る。十分これを食べて差支がないと思ふのであります。果物を多く食べて、餘の食物を儉約して宜敷い。又果物は、よく渴を止めるものでありますから、これを食べれば、その他の葡萄酒とか、麥酒とか、サイダとかいふやうなものは、飮まぬでもよい譯であります。

以上は、榮養鹽類を與へるものとして、果物を見たのでありますが、尙ほその他にも、健康上に善い性質があります。と申すのは、今日の所では、前に申したやうに、食物が物濃くなつて、榮養分は澤山に含んで居りますが、滓が少ない。一體吾々の消化器といふものは、自然に滓の多い食物から榮養分を採り出すやうに出來て居るのでありまして、その植物性食物の、木質、ツエルローゼのやうな滓の部分が腸に必要な刺戟を與へて、その働を善くするのであります。座つて居ることが多くて、物濃いものを食べて居る近頃の人は、これが爲に往々便秘を來してそれより痔だとか、頭痛とかいふやうなものを患ひて居る。又餘り長い間、腸の中に滯つて居る食物の殘物は、醱酵し、分解して、毒を拵らへ、これが血の中に移り行いて、血液を惡くする。然るに果物は消化を整へ、便通をよくし、消化の振はぬ爲に起る所の障を防ぐものであります。是を以て觀れば、昔

の人が果物は血を淨めるといふたのは、眞に理のあること丶思はれます。

果物は又この他にも、血液に取つて、大事な關係を持て居ります。乃はち吾々の體の中には、自然に尿酸が出來ますが、通常の狀態では、外に出される。所が種々な害を蒙むれば、これが血液の中、身體臟器の內に溜つて、よく痛風といふやうな、重い障を起して來るものでありますが、肉類を多く嗜むものは痛風に罹り易く、多く植物性の食物を採れば、これが癒ほるやうになると言はれて居る。この目的には、果物は特に宜敷い、何となればその中に含んで居る植物酸は、よく尿酸を外に出す働があるからであります。

それ故に、これに似寄つた場合には、以前より果物療法を應用されたものであります。然し素人には、どういふ場合にこれを用ゐればよいかは一寸分かり兼ねる、これはまあ醫者の仕事でありまして、この果物を食べてはならぬ、病氣の狀態もなか〳〵澤山ありますが、これをかまはず、果物療法をやつて、大害を招くことも往々見受けられる所であります。然し玆に申す所は、病人の爲に言ふではなくして、健康な人が、更に健康に生活して行かうといふ爲に申すのであります。これには果物に限るのであります。果物を買ふときは、熟したもので、而も腐つて居ないものを買はねばなりませぬ。これは分り切つた、言はずもがなの事でありまするが、世の中には隨分わかり切つて居る衞生上の法則を破つて、平氣な人も決して少なくはないのであります。

又齒を惡くするから果物を食はぬと云ふ人もあります。これは一應尤もなことで、果物の中に含んで居る所の酸は、齒をも侵すでありませう。然しそれは酸が永く齒に觸れて居る時のことで、果物の後に直ぐパンを食べるか、口を洗へば、齒を害するやうな氣遣はありませぬ。のみならず、これと反對に、果物は齒を強くすると申してよろしい。どうしてかと云へば、果物は、齒の構造に必要な鑛物質を、血液

の中に送るからであります。それで歯の生育つ所の兒童に、果物を食べさせるのは、宜しいことであります。

活ける家（承前）

醫學士　渡邊房吉

（二八）活ける家の建築材料（下）

多くの人は其口にする食物の種類及び品質に注意せず、又身體の細胞が如何な食物を要求するかにも頓著せず、食物とは申し惡い品物や、食物ではあれど餘り好ましからぬものを平然と味つて居りますが、これは畢竟食物の本義を間違へて居るもので、取りもなほさず

（乙）あしき建築材料

を以て身體組織をこしらへやうとするものであります。斯かる食物によりて養はるゝ身體に健康を望むは全く出來ない相談で、木によつて魚を求めよと注文するやうなものであります。身體をして完全圓滿に發達させやうとするには、第一に身體の組織が要求するあらゆる成分を適度に含んで居る食物を味はなければなりません。或る成分には富んで居るが他の成分には乏しいと云ふやうな食物は、決して善良なる建築材料とは申し難く、恰も大工が家を建つるに或る材料のみ多く使ひて他の材料は用ひぬと云ふやうに其釣合が適度でなければ其家の堅牢は保證し難いのであります。五穀、野菜、果實、胡桃、牛乳クリーム、バタ、鷄卵等のやうな自然のまゝの食物には、最も良い割合に身體組織に必要な成分が配合されて居るものであります。故に五穀と牛乳とを合せ食へば頗る身體の榮養をたすけ五穀と果實及び胡桃を共に食するのも極めて良い配合であります。然しながら

一度に諸種の食物を合せ食ふのは望ましくない

建築家は決して煉瓦と敷石と瓦と壁土とを一度に搬

ぶことは無い。先づ二種若くは三種の食物をうまく配合せて一度の食とし、幾十種の食品は幾十回に分けて味ふのが至當であります。殊に或る種の食物を他の種の食物と一緒に食べる時は却つて不消化となり、胃腸を害し、嘔吐や下痢などを惹き起すことがあります、注意せねばなりません。概して

單純食（シンプルフード）

と稱し、餘りに雜多の混ぜものや、香味の附けてない淡泊した食物の方が健康を資益するものであります。大工が家を建つるには漆やタールを塗りたてた材木を使ひませぬ、身體の細胞が活ける家を打ち建てるにも芥子や胡椒や唐辛や油類は不用であります。實に不用であるばかりで無く、之と共に食する食物の所有てゐる固有の風味を失くし、又身體細胞を害することと決して尠からぬものであります。實際

芥子、胡椒、唐辛し、薑の類

は、活ける家の建築に向つて頗る惡しき材料であります。嚴密に云へば寧ろ材料とは申し難いのでありま す。何故かと云ふに、是等の品物は全く食物としての價値が無く、身體に向つて何等の榮養にもならず、却つて善良なる食物の作用を害するからであります。

菓子、餅菓子の類

も榮養としての價値は少なく、身體維持に向つては殆ど無用と稱すべき、惡しき建築材料であります。勿論諸種の菓子の中にはバタや、鷄卵や、果實や、香味や、酸や、胡桃や、砂糖などが交へられては居りますが、其交へられて居る割合ひが身體に於て如何なる具合に作用するかに注意してはありませぬ。故に牛乳が入つてゐる、鷄卵が交つてゐると云ふ名目に欺かれて無暗に是等の菓子を食へば、胃を害し腸を損するのは當然であります。すべて自然本來の淡泊した單純食は、人工を加へて料理した美味よりは、身體を補益することの遙に大なるものであります。さりとて如何に材料がよくとも

適當に料理して無い食物は惡し

き建築材料たるを免れぬものであります。松も杉も樫も檜の木も、山林から切り出したばかりでは、立派な家を建つるに適せず。五穀も野菜も馬鈴薯も豆類も、生のまゝでは健康なる身體を組織すべき屈強なる材料とはなりません。要するに一家の主婦としては巧みなる外交家、若くは天晴れなる音樂家たらんよりは、寧ろ

よき料理家

たらんこそ願はしきことであります。然しながら私の云ふよき料理家とは決して惡味ものを美味く食べさせ、盛んに味覺を誘惑して、身體の要求以上に貪食暴飲させると云ふ意味では無く、自然の風味を害せぬやう、其含んでゐる榮養素を身體の經濟にうまく利用させるやう、多少不消化性のものでも胃腸に入りて良く消化させるやう、食品の配合に注意し身體の害にならぬやうに料理する者を云ふのであります。動物は料理と云ふことを知らぬ、動物の消化器は生の食物を消化するに適して居るがため、敢て料理の必要が無いのであります。然しながら人類は春期に種子を播き、夏期に草ぎり水注ぎ、秋期に刈り入れ貯へて、種々の手數と勞力とを費し、斯くて諸種の方法により味ひもよく、消化もよく、榮養にもなると云ふ衞生的食物を料理すべきものであります。

生の儘では衞生に適せぬ

生の澱粉は消化が惡しく、生の甘藷や生の米は味ひに乏しい。これ生の儘であつては小さな澱粉細胞が被囊と云ふ皮で包まれて居るからであります。故に此被囊が唾液にふれ、若くは胃液に作用される前に打ち破られねばならぬのであります。此被囊を打ち破つて其中の澱粉を出し、能く消化させるやうにする唯一最良の方法は、之を煮ると云ふことであります。

御飯を炊く

のは決して容易の業ではなく、一定の熟練をした人によつて始めて期し得らるゝものであります。水加

減、火加減に心得がなければ或は『堅く柔かく、ママにならぬは浮世なりけり』と云ふ有様になります。試みに交際は巧みで、學問は博く、工藝美術一として心得ざること無しと云ふ現今のお孃様方女學生諸君に向つて、御飯を炊かして御覧なさい、果して口に適ふべき衛生食が出來上るでありませうか。讀者諸君、一日三度の食物は我々の身體を持續する唯一の糧ではありませぬか、

米を洗ひ飯を炊くは獨り飯炊お三どんのみに委ぬべきではありません

之を賤業として輕視すむのは、却て其人の品格を疑はしむるものであります。病人の食物としては普通

米粥、米汁、肉汁

の如き流動食を用ひますが、何れも健康者の常食としては不適當であります。殊に米粥の如きは齒より咀嚼されずに嚥み込まれて仕舞ひますから、能く咀嚼た常食よりは寧ろ消化の惡いことがあります。ソップは榮養としての價値は無く、只他の食物の通らぬ場合に胃中に入り、胃壁に快く感じられるばかりであります。サルを非常の榮養物と思ひ込んで居つては、大なる間違ひであります。

パン

を燒くのも頗る六ケしく、西洋ではうまくパンが燒ける者は一人前の料理人と云はれて居るそうであります。パンのうちでも硬い外皮が榮養に富み、之を能く咀嚼んで食べれば唾液のために糖分となり頗る甘たな味ひを與へます。パンを薄く切つて高熱にかけて燒けば、澱粉はデキストリンと云ふ頗る消化し易い糖分となります。

菓實

は多くは生のまゝ味はれるものでありますが、其皮殼は不消化物でありますから、成る可く之を剝き去るべきであります。

馬鈴薯及び甘藷

の類は身體組織に必要な鑛物質や澱粉を含み、適當

な料理法により善き建築材料となるものであります。殊に之を火にかけて燒く時は、最も消化し易い澱粉質に變化するものであります。

鷄　卵

は半熟が消化し易い、硬く煮たのや炙つたのは善き建築材料と云ひ難い。

天麩羅

は何れの種類であつても胃腸を害し、消化を損ふ。

獸　肉

は必ず能く煮なければ危險であります、獸肉の中には屢〻恐るべき病毒を含んで居つて之を人體に傳染させ、危險い病氣を惹き起すことがあります。

食時には多量の飲料を飲んではならぬ

飲料をのめば胃液が稀薄になつて、消化作用が鈍り充分消化されぬうちに吸收されるやうになります。然るにお茶漬けを稱揚し、食後お茶を飲む習慣は、衞生の方則に戻つて居る本邦の弊風であります。冷水若くは氷水を食事に飲むのは、お湯やお茶を飲むよりは更に良くない習慣であります。何故かと云ふに是等の冷水が吸收されて害をなすばかりでなく、冷水のために冷やされた食物が消化されるやうになるには再び暖められなければならぬからであります。

甚しく疲れて居る時若くはいたく興奮して居る時に飲食するのは無益

であります。疲勞、心配、苦勞、難儀、憤怒、悲哭恐怖などは凡て消化作用を著るしく害するものであります。就中恐怖と心配は殆ど全く消化作用をさゝめ、唾液の分泌さへも出ず、從つて咽喉も舌も乾燥きるやうなことがあります。試驗場などで受驗者が試驗委員の質問に答へやうとしても、口が粘つて聲が思ふやうに出ないと云ふ事のあるのは、全く恐怖と心配とのため唾液の分泌の少くなつた證據であります。

昔し支那に罪人を吟味する風習がありまして、生米を咀嚼ませて見ると云ふ事がありました。惡事を働いた者であれば心中の恐怖と心配とから、唾液の分泌が止まり、充分生米を咀嚼むことが出來ぬ。然るに心容一點の疚しき處もない善人であれば、唾液の分泌も平常の通りで、生米を咀嚼みこなすことも亦た平常の通りである。是に由て之を觀れば

心の平和と愉快

とは食膳に向ふに當つて必ず缺くべからざるもので差し當り胃の惡いとか、消化不良とかをつぶやかる方々は、先づ心を落ちつけて愉快に其氣を持つべきであります。

間食

は消化の順序を亂し、胃に休息のひまも與へないでよろしくない。胃病の人が意地の汚ない間食家に多いのは之がためであります。然しながら非常に飢を感ずるやうな場合には、輕い菓子や果實などを味ふのは差し支へない。只飢も感じないのに、習慣のやうに、間食をするのは絶對的に禁ずべきであります。

一日中の御馳走

は成るたけ晝食にするやうにする、朝飯は淡白したものがよい、晩餐も輕いのがよい。寢に就く前少くとも二時間乃至四時間位に晩餐を食べる、晩餐に飽食は禁物である、茶、酒、咖啡などのやうな興奮劑も餘り多く飲んではならぬ、夜間の睡眠の之がために奪はるゝことは決して少なからぬものであります。

蚊と蚤（承前）

柳尾驥子

二、蚤

蚤の種類、蚤には非常に澤山の種類がありまして、其の宿つて居る動物によりて各々異つて居るのは勿

論、同じ動物にも數種の蚤が寄生します。通常人家に見る蚤は六七種でありまして各特徴を以て居ります、卽ち人に固有なる蚤を人蚤と申しますし、犬には犬蚤、猫には猫蚤、鼠には鼠蚤が居ります。鼠に居る蚤は又鼠蚤の一種ばかりではありません、外に眼のない盲蚤と申すのも居りますし、ペストの傳染に殊に必用である所の印度蚤と申すものも居ります。そして普通人家より見出す蚤は以上の六種が最も多いのであります。此外の蚤の種類は英國のロスチャイルド氏の調査したのでは九十餘種もあるさうであります。このロスチャイルドといふ人は蚤に就て非常に詳細に研究した學者であります。

今は十餘年の昔、明治二十九年我が緒方博士は臺灣に於てペストの研究中蚤はペストの傳染を媒介するものであると申されてから以來、各國の學者は盛に蚤に就て研究されまして、蚤に就ての知識は益々明らかになつて參りました。

蚤の外形、蚤の外形は誰も知らるゝ通り赤色卵形のものでありまして、表面は至極滑かである樣に見えます。併し蟲眼鏡で之を見ますれば大に案外でありまして、十三の節を持て居り、其上には全體にわたつて短き太き刺が生えて居ります、各節は瓦を並べた樣に後に向つて敷かれて居りまするし、又刺は皆後へ向つて生えて居りますから、小さな隅にもぐり込むには最好都合であります。少しでも動く時は體は前方に進み背進する事がありません。其の爲めに人の指の間からも容易に逃走いたします。

頭には大なき圓き眼が一對輝いて居ります。其側に一對の觸角があります。

蚤の口、之れは蚊の口とは大に趣きを異にして居ります。卽ち短き比較的太き嘴でありまして、外面に節ある鞘を有し、中は一本の管であります。之れが血液を吸ふ機關であります。此嘴の兩側に一對の銳い鋸があります。之を以て他の動物の皮膚を穿つのでありまして、其吸ひ取る血液の分量は其體の大きさに比例して居ります。

蚤の足は六本ありまして、其後脚は強く發達し、よく其身長に數百倍せる距離を跳ねることが出來ます。足の先端には長き爪がありまして物に止るに都合よく出來て居ります。

蚤の鑑別、以上お話したのは人の蚤でありますが、普通人家に居る犬蚤、猫蚤、鼠蚤、盲蚤、印度蚤等と見分けるには、如何すれば宜いか、之れは外形を好く見れば容易いのであります。少し慣れますれば肉眼で見たばかりでもわかりますが、蟲眼鏡で見ますれば猶更明かであります。

先づ第一に分けるのは雌雄でありますが、之れは唯其大さが、雌が大きく雄が小さい許りであります。蚤の夫婦とは卽ち此を指したのでありませう。

次に前に申しました六種に就て見るに、人の蚤は形が殊に圓く、一般に色が濃く、そして全身の毛が少い。之に最も似て居るのは印度蚤でありますが、其の色は人蚤の方が濃く、爪は長く、尻の所にある一本の毛が人蚤のよりも印度蚤の方が長いので分ります。犬蚤、猫蚤は形に大なる差異がないが、此所に注意すべきは頭と胸とにある黑褐色の櫛の齒の樣なシコロであります。此シコロを二つもつて居るものは犬猫蚤であります。次に鼠蚤及び盲蚤は此シコロを唯頭に一つ持つて居るばかりであります。そればかりでなく、鼠蚤は形一般に細長く色も少し淡いので區別が出來、盲蚤は一層細長く色も薄いので區別が出來ます。

蚤の藝、蚤には藝を敎へる事が出來るそうであります。そして其の力は誠に驚く程ありますから、從つて種々の藝をする事が出來るのであります。例へばある人は重さ一厘五毛程の黃金の鎖を蚤につけて容易に引く事が出來たと申します。又或る人は象牙で一輪の馬車を刻み、六頭の馬をつけ、御者一人、客六人、犬一疋を(何れも象牙にてつくりたるもの)乘せ、一つの蚤にて牽かせる事が出來たそうであります。佛蘭西の巴里では、斯樣な種々の藝を蚤に敎へて、見世物にする事が一時流行した事があります。

そして之を養ふには自分の腕の上にのせて、血を吸はしたといふ話であります。若し命に背く時は石炭の塊を近けて薫す時はよく指揮者の命に從つたそうであります。其蚤の中には二年半長生したものもありました。

蚤の生涯、蚤も蚊と同じ樣にたゞ湧くものではありません。必ず卵より生るゝものであります。蚤の生む卵の數は一回に八乃至十二個でありまして、此は疊の間、牀下の地上、牀板、古道具の隙、汚れた毛氈等通常蚤の隠れ場とする所に産みつけます。凡そ夏は四五日、冬は十一日位にて孵化致します。

幼蟲　は蛆と申しまして長さ一分位の蛆と全く違ないものであります。眼もなく足もない白い蛆でありますが、次第に赤みを帶びて參ります。其食物に就ては色々の説がありまして確かに分かつては居りません。或人は母蚤が産卵の時數粒の血塊を殘して行くともいひます。或る人は幼蟲は互に共喰ひをして[illegible]るとも申します。其幼蟲が共喰をして成長するのは外の昆蟲(例へば蜘蛛)にも往々見るものであります。又或る人は母蚤が口づから其子を養ふのだなどゝ申して居ります。然し最も信用さるゝ説は此幼蟲は塵芥の内に蠢めいて生活して居りまして、其中にある有機物を食して居るものだろうといふ事であります。

蛹、幼蟲は二週間位にして白き繭を作り、其中で蛹となります。之は又凡そ二週間も經て成蟲となります。

蚤は一年中生活して居りますが、其の繁殖に最も適して居る時は春夏及秋でありまして、殊に春三四月の候と秋九十月頃は最も盛に發生致します。盛夏には一時少くなります。

蚤と傳染病、偖、蚤が果してペストの媒介者であるか如何か、之れは明治二十九年以來盛に研究せられました事でありまして、或は贊成する人もあり、或は反對する人もありまして、議論百出決する所がありませんでしたが、今日に於ては此れは疑ふ事の出

來ない事實であると證明せられました。併し蚤は何れの種類でもペスト傳染を媒介するものでありませうか、北里博士等の研究によりますれば、唯印度蚤のみの樣であります。併し緒方博士は何れの蚤もペストの媒介をするといつて居られます。

元來前申しました蚤は、各固有の宿主がありますが時とすると人蚤が犬猫に宿つたり、鼠に寄生したり致します。又鼠蚤、盲蚤等が人について居る事もありますが、此等の事は極めて稀でありまして、且つ左程長くは生きて居らぬ樣であります。併し假令長く生きて居らぬとも、鼠の蚤が人に寄生して、人の血を吸ふ事があるとすれば、先づ危險がないといふ事は保證が出來ないのであります。然るに印度蚤は主として鼠に寄生して居りますが、此は頗る貪食でありまして、人でも犬でも何でも寄生して生活致しますから、最も危險な蚤であります。然し此印度蚤は、元來印度の鼠の蚤で歐洲や日本には居らない蚤であります。唯時とすると開港場などで船舶、倉庫から發見さるゝ計りでありました。所が我國にてペストが流行して以來は開港場は勿論ペストのあつた所には至る所に見出さるゝ樣になりました。でありますから鼠に若しペストが流行したならば、何時其蚤が人にうつりてペスト流行を起さぬとも限りません。之を考へて見ますれば、かの小さな蚤は誠に恐るべき人類の敵であります。

蚤が如何してペスト傳染の媒介をするかと申しまするに、之れは蚊がマラリヤやフヰラリアを媒介するとは少し違つて居ります。ペストの病原體は一種固有の微菌でありまして、蚤がペストに罹つて居る人或は鼠を刺しまする時に、ペスト菌は血液と共に澤山蚤の口吻の周圍や胃の中に入ります。鼠がペストに罹りまするど數日の中に死してしまいますから、其の溫みがなくなりますと共に其體について居つた蚤は屍體を去つてしまふものであります。此の蚤は即ち口吻の周圍や胃の中に澤山のペスト菌をもつて居る蚤でありまして、他の健康な鼠或は人を刺す時

に其黴菌を注入いたします。

蚤の驅除、蚤の恐るべきは蚊の比ではありません。マラリアは藥で容易に治癒する事が出來ますがペストに罹つたならば醫者の力では之を如何ともする事が出來ず、たゞ自然の力に委せなければなりません。其危險思ひやるべきであります。でありますから其驅除法は充分に研究されなければなりません。殊に蚊は蚊帳を以て避ける事が出來ますが、蚤は衣衾の中にかくれて居りますから、之をさけるのは非常に困難であります。從つて、蚤の害をさけるには其發生を防ぐのが最上策なのであります。

蚤の發育は不潔なる光線の不充分な風通しの惡るい所でするのでありますから、空家、讓家、貧家等には蚤が非常に多いものであります。之に反し清潔な風通しの宜い家には蚤は少いのであります。故に蚤の發生を妨げる最良法は清潔法で、疊の間の塵、床板の間などの塵芥廢物を常に除き去るのは最もよき驅除法であります。また疊の下に新聞紙を敷く、胡桃の葉をしくのも宜しいそうであります。又石灰を散布し、除蟲菊の粉末をまくのも有效であります。

既に發生して居るものなれば之を取り盡さねばなりません。之を捕へてつぶすのは最も確な法でありますが、煩はしくて出來ません。除蟲菊の粉を散布する時は蚤は一時痲醉するばかりで、また蘇生しますから此時にも其の痲醉して居るものを取り盡すか、燒くかする必用があります。又蚤を取るに昇汞水や石灰乳は效能がありません。故にペスト病の出た家を唯此れ等のもので消毒した丈では充分でありません。外に蚤を取る工夫をしなければなりません。其には却て揮發油、重油などの方が價も低廉で效能も宜い樣であります。

近來石原醫學士はクロ、ホルムが蚤を殺すに最も好いといふて居られます。それは蚤の居る所を見出したならば、其所へそつてクロ、ホルムをもつて行く方法でありますが、クロ、ホルムは人體に危險でありますから、用ゐる事が出來ません。

最後に一言したいのは、蚤をつぶすといふ事で、此はなる可くさけたい事と存じます。大抵は危險もありますまいが、此頃の樣に所々で有菌鼠が出る時には蚤も亦注意物でありまして、若しそれがペスト菌でももつて居りましたなら、之を指さきでつぶす事は危險な事であります。假令危險がないにしても指端でつぶすのは不潔である事からして、排斥いたしたいので御座います。之を炭火の中に投ずるのは不潔でないといふ點から申しましても、又危險な事は毛頭もない所から見ましても、蚤を殺す最良の方法であると存じます。また之をつぶしましても頭の方がよくつぶれて居らなければ、再び人を刺すものでありますから注意が必要であります。

少し横道でありますがペスト豫防に就ては昨年コッホ先生が猫を飼へと申されました、之に就きましては一時は反對者もありまして、猫でもペストに罹つて居る鼠を食ふたり又は其の蚤に刺さるゝ時はペストに罹るから、猫を飼ふはペスト豫防にはならぬといふ人も御座いました。所が實例に就て見まするになる程鼠の蚤殊にペストと最も緣の近い印度蚤も猫に寄生いたしますから、猫がペストに罹るのは當然の樣に思います。併し猫はペストに罹り難い性質を以て居るので御座いませうか、實際にペストに罹る事が少いのであります。一昨年十二月兵庫縣の由良町のペスト流行の際には人口百人に對し一人以上のペスト患者が發生いたしましたが、其町内に住んで居つた猫の總數六百十三個の中ペストに罹つたのは唯一疋でありました。其中の或る猫には多くの印度蚤や、有菌蚤をもつて居るものもありましたが、ペストに罹らずに終りました。して居ると猫はペストに罹りにくいのでありませう。でありますから鼠族退治從つてペスト撲滅には猫は有效なものであります。

猫には澤山の蚤が居りますが之は人蚤とは違つたものでありますから、其れが人間を悩ますやうな事は殆どありません。此點は安心して可なりで御座いま

す。

蚤には以上申しました外に種々ありますが、世界で最も大きな蚤は濠洲に産するヤマアラシ及蟻喰獣こ申しまする動物の蚤でありまして、其身長は一分五厘位あるそうで御座います。

最も恐しい蚤は亞米利加のブラジル地方に産するスナノミこ申すものでありまして、身體は極めて小さく、色は同じ樣に茶色をして背中の中央に白い點があります。此は砂の中に棲んで居るもので、人獸の足に食ひ入りて卵を生むものであります。好んで襲擊する所は指の皮下又は爪こ肉この間でありまして始め浸入した時はわかりません、二三日の後になりましてから痒みを覺え始め、次第に強くなり且つ腫れて參ります。數日の後には遂に爛れて來て、非常に人畜を苦めるものであります。土人は針を以て巧みに此の蚤を皮下より引き出すそうであります。

附、南京蟲

南京蟲は又トコジラミ、トコムシなどゝ申しまして歐洲を始めこし、支那朝鮮に居るものであります。我國には以前には居りませんでしたが、近來は諸國から輸入されて、所々に居ります。

外形は圓い平たい、丁度圓板に足をつけた樣な蟲で大きさ一分五厘位あります、色は淡赤色或は褐赤色であります。羽なく、五對の足を以て速に走る事が出來ます。胸部の下面には漏斗狀をなして居る小さな孔がありまして、非常に嫌やな臭を發する物質を排泄いたします。

日光、燈光を嫌いまして、常に暗い所に隱れて居ります。夜になりましても、燈火のある間は出て來ません、燈火を消すこ直ちに其隱れ家から這ひ出して蒲團から出て居る部分卽ち頸、手、腕、足等を刺し血液を吸ふのであります。此時急に燈火をさもしますれば、南京蟲が不意を食ふて逃げ去るのを見る事が出來ます。

隱れ家は壁板のうら、牀板の間、柱のわれめ、壁のすき、簞笥、戸棚等の中、疊の隙等でありまして、

此所に産卵いたします。一年に數回産卵しまして一回には五十位づゝ産みます。白い楕圓形の卵でありますが一週間か十日の間に孵化して幼蟲となります。此幼蟲は母蟲と略ぼ同じ形をもつて居りまして人の血を吸ふて成長いたします。五回脱皮した上で凡そ七十日前後で成蟲となります。

其の螫し口は極めて細微でありまして、螫された時には痛みも痒みもありませんが、數時間たちますると、其所は著しく腫れあがり、痒みを以て參ります。之を掻けば痛みを生じまして一週間も全治いたしません。

南京蟲は風通しの宜い、日あたりの宜い室には居りません、日本の家屋は此點に於ては南京蟲の住むに不都合な所であります。洋風の家には此蟲は住み易いのであります。猶不潔な家屋、船底、下等船室などには澤山居るものであります。西洋では下等の宿屋には澤山居りまして、紳士などが手や頸にはれものがありますれば昨夜安宿屋に泊つたと知らるゝ程であります。

南京蟲を驅除する事は極めて困難であります。寒暑に堪える事が強く、半年位斷食しても平氣で居るそうであります。之をつぶす時は其の厭ふべき惡臭が手について數日間も取れません。でありますから其害をさけるのはなか／＼困難であります。

先づ夜間の襲來を防ぐには、終夜火を點しておく事であります。燈光が輝いて居る間は出て參りません。然し數日或は數十日もたちますと。蟲は燈火に慣れて出て參ります。

除蟲菊の粉を撒くのも其襲撃を幾分かさける事が出來ます。

全然驅除するには、種々の藥が用ゐられて居ります。石油、石腦油、テレビン油、ベンジン、番木鼈丁幾等は何れも有效でありまして、之を南京蟲の居そうな壁の隙間、柱の割れ目等にふき込むのであります。また昇汞水も有效であります。最も確實なのは亞硫酸瓦斯でありまして、之を用ゆ

るには室の戶を悉く閉ぢ籠め、中で硫黄を燃やすのであります。亞硫酸瓦斯を吸收すると嚏をし、咳が出ます。多く呼吸する時は中毒症狀を起して呼吸器病其他の疾病を起しますから、呼吸せぬ樣に注意せねばなりません。又亞硫酸瓦斯は種々の金屬を變化させます。銀などは黑色に變じますから、室內には大切な金屬をおいてはなりません。

斯樣に用意が出來た所で硫黄を盛に燃やし、四五時間の後戶を開き、充分に瓦斯が放散した所で室內に入るのであります。斯くする時は南京蟲は影もなくなつてしまいます。

齒の話

A. S. 生

世が開けてゆくに從つて、益々人の體が惡くなるものか、どうかと云ふことは、近年しきりに學者の研究して居る問題でありますが、文明國の婦人の體は實際惡くなつて來たばかりでなく、その子供の產れる數も減り、從つて人口も割合に少くなり、又發狂者その他の病人は殖え、近眼や齒の惡いものゝ多くなつたことは、最も著しい事柄であります。これは開けた國、特に都に住んで居る人々が浮世の浪風と戰ふにつれて、心を碎き、身を疲らし、此れと同時に暮らしも段々贅澤になり、浮氣になり、淫逸になりて、その心を傷け身を毀りて、自然に享得たる力を失つて來たといふことを表はすものであります。

かくの如く文明人の體は、次第に損なはれて行くといふことは、大體より觀て事實でありますが、偖てこれを一々學問上より證據を擧げて、詳しい說明をするとなると、なかなか容易なことではありませんが、齒の事についてはよく調べた人があります、即ちラーゼと申す人の研究は、餘程しつかりしたもので、これによれば人の齒は段々弱く惡くなつて來たことも、その原因もほゞ分かるのであります。それ

でこのラーゼ氏の研究して得られた事實に由つて、齒の惡くなつてきた譯や、その他の事をお話して見やうと思ひます。

何でも今日一つ纏まつた學問上の研究を成遂げるには、なか／＼容易なことではありませぬが、この研究もドレスデンの大工業家で、リングチルといふ人が、自分で金を出して齒牙衛生試驗所といふものを建てゝ、ラーゼ氏を聘して、この大袈裟な實驗をやつたのでありますが、その研究の爲めに集めた材料は、實に二十二萬七百三十七人と云ふ大數に就いて採つたのであります。

この研究でまづ分つて來たことは、智齒と上顎の外側の門齒が退化して來たと云ふことであります。初め一千八百九十四年に、ラーゼ氏は、上顎の外側の門齒の、發育の惡るいものが、よく有ることに氣が付いて、これは顏面骨が退化して、門齒の育つ場所が狹められた爲であらうと考へた。而してなほ研究を續けて居る中に、この考は間違つて居るといふことを悟つたのであります。乃はちこれは顏の骨とは全く關係のないことで、長顏の人も圓顏の人も角顏の人も共に門齒が退化して居るのであります。亦門齒は退化して居るばかりでなく、稀には二重に生えることがある。これらの事を考へて見るに、乳齒では、普通の齒のやうに退化して居ない、却て二重に生えることが多い。これは極古の人間が、動物のやうに生活して居た時分には、片側三本の門齒を有つて居たのが、偶ゝ今の時代にも現はれて來るものと思はれる。又この門齒の退化といふことは、他の動物にはないことで、只類人猿に稀に見る所であります。これが人間では一層著しくなつて來たものと見える。而して人類では、女の方が男よりも著しく門齒が退化して居る。又同じ人類でも、北の方に住んで居る民族は、門齒の退化が著しいと云ふことでありますが、この門齒の退化といふことは、野蠻な人種には少なく、文明人程著しくなつて居るのであります。

以上は門齒に就ての話でありますが、智齒に就てもやはり同樣で、猿の臼齒の三番目を見ますれば、その長い月日の間に段々と遺傳的に退化して來た跡が分ります。殊にギッボンにはこれが著しく、この點は一番人間に近いものであります。人類の中でも、歐洲人に較べまするさ、他の人種は、やゝ智齒の退化が少ない、而してこの場合に於ては、圓頭のものは、長頭のものに較べまするさ、特に退化の度が少ないのであります。門齒では、長頭のものゝ方が退化が著しい。

これまでは、人類の齒が、生理的に自然に斯くなつて來たことを述べたのでありますが、次にこれよりも一層大事な、齒の病的の退化に就て申述べなければなりません。これは諸國の統計表に依て見るさ、實に驚くべく又恐るべきものがあるのであります。今やはりラーゼ氏の調べた所に據りまするさ、獨逸各地方の村々の小學校生徒に於て、總數の七十プロセントから百プロセントは、齒の病をもつて居るもので、これを齒の數から割出すさ、一人に付て平均二本半から十二本六分の病氣ある齒を有つて居る割合になりまして、これを百分率に換算すれば、十・二プロセントから五十一・二プロセントさなります。又獨逸各地の都市の小學校生徒に付て調べました所が、その七十七・四プロセントから九十九・七プロセントは、病のある齒を有つた兒童で、これを齒の數からするさ、一人の兒童が平均二本六分から十本九分までの惡い齒を有つて居る割合であります。而してこの齒の病氣の中で、最も罹り易く、また最も忽にしてはならぬのは、即ち蝕齒であります。これは齒の間に挾まつた砂糖、その他の食物の殘滓が分解して出來る所の有機酸の作用によるのでありまして、これが、まづ齒の頭を包で居る最も堅い琺瑯質を毀して、段々さ内の方へ蝕れ込み、遂には齒の髓を侵して、疼を起したり、腫れたりして、膿さなつて、全く亡くなつてしまふのであります。

すべて、これらの齒を惡くする原因は、色々ありま

するが、就中その齒の質が、生れつき良くないと云ふのは、最も重なる原因といはなければなりません。世には齒の良い人もあれば、惡い人もある。而してこれはその子孫にも遺傳してゆくのであります。ラーゼ氏の言ふには、野獸を見ると、その齒は質に健全なもので、鬪ひつゝ生きてゆくには最も大事な武器である。それで若しその齒が惡くて、齲齒などがあれば、忽ち體が他のものより劣て來るから、負けてしまつて、亡びる。或は力の強いやつに追ひ廻はされて、子孫を續いでゆくことが出來なくなる。かういふやうな事からして、野獸は自然に立派な齒を子孫に遺傳して、齲齒などゝ云ふものは全くない。人類でも未だ開けない國のものは、生のまゝで食ふたり、堅いものを嚙み碎いたりする要があるので、その齒の善惡は大にその人種の生存に關係して來る、それで亞非利加人や馬來人などの齒は、歐羅巴人に較べると數等健全である。又地の下に埋つて居る極昔の人間の骨を觀ると、その齒は、今時の吾々のものから見ると、遙かに勝つて居る。今の人間は惡い齒をもつてるものが非常に多いが、食物を軟に拵へたり、入齒をしたり、樣々な事をして不便とも感じない。そこで昔は齒の強いもの、體格の優れたものを撰んで結婚したのが、今では金の澤山あるもの、智慧の多いものを擇ぶやうになつて、假令その齒は、どんなに下等でも、子孫を繼いでゆくことが出來るやうになつた。かやうにして、その下等な齒を子孫に遺傳して、更に齒などを氣にするものが無くなるであらうと云ふて居る。

尚ほその他に顏面、顎骨の工合より齒の病を起すものもあります。統計に依つて見ますると、長顏の人は、丸顏の人よりも齲齒に罹り易いといふことであります。殊に極めて顏の長い人と、至つて顏の丸い人とを比べて見ると、その長い方が殆ど二倍も多く齒を惡くすると云ふことであります。これは、つまり顏が長ければ長い程、顎骨が狹いのが常でありますから、從つて齒が互に押合つて、並び方が不揃に

なる傾がある、而してその隙間や凸凹の所に食物の滓が留り易い、それのみならず、顔の長い人は、顔の丸い人よりも咀嚼筋、卽ち物を咽む時に働く筋肉が弱い、從つて軟い食物を撰んで、靜に咬んでばかり居るので、益々齒は弱くされると云ふ次第であります。

次に齒の善惡は、幼時の育て方にも由ることが少なくない。乃はち母の乳を飮まされない小兒は、母の乳で育てられた小兒に比べると三倍も四倍も多く死ぬるばかりでなく、その生き殘れる者も、母の乳を飮んだものに比べると、身も心も劣つて居り、齒の惡いことも二十八プロセントだけ多い、又佝僂病などゝいふものも、母の乳を飮まされないものが、通常の小兒よりも二倍半から四倍半も多く罹るのであります。

次に料理の仕方が上手になると、齒の病が多くなつて來る。例へば今堅いパンと、柔いパンと、どちらが齒の爲によいかと云ふことを比べて見れば、皮の堅い、十分に燒けた、鹽氣の多い黑パンの方が、柔い、鹽氣の少ない白パンよりも、遙に齒の爲によいのであります。シユウエーデンでは、ダラーナ人の齒は、常に堅い百姓流のパンを食ふて居る爲に健全で、ゴツトランド人の齒は、柔い黑パンや、殊に砂糖入りの白パンを食ふた爲に、ひどく惡くなつたのだと云はれて居ります。

右の樣な次第であるからして、齒を丈夫に發育させやうといふには、特に小兒の時分より、程よく堅い食物を嚙ましめるやうにすることが大切である。徒に齒を大事がつて、何でも軟いもの計食べさして置く小兒は、遂に齒科醫の厄介にばかりなるものであります。然し自然に齒の拔け變るまでは、なるべく乳齒をいたはつて、壞はさぬやうにしなければなりませぬ。

尙ほアルカリ性の唾液は、齒の腐れを止める效があつて、齒を健全にして置くには大切なものであるから、なるべく石灰に富で居る食物などを取つて、十

分に唾液を分泌させ、その中のアルカリ分を増すやうにしなければなりませぬ、尤もその效力は、自分一代で十分に現はれると云ふ譯にはゆかぬでありませう。

齲齒は又職業に依て、多く罹るといふ關係もありまして、菓子屋とか、料理人とか、又釀造者、頭を使ふものなどは、農夫、大工、左官、靴屋、仕立職人などに比べると、餘程齒を惡くして居ります。これは一つは身體全體の榮養からも關係して居ることでありませう。

兎に角、齒を惡くすることは、人類の進歩發達を妨げるものでありまして、齒と云ふものは、消化、榮養といふものと、どの位深い關係があるかといふことを考へれば、直ぐ分かることであります。獨逸の諺にも、噛めば消化れる、とか、堅パンの赤頬、とか云ふやうなことがありますが、全くその通りでよく噛んで噛み込めば、胃でも腸でも、自然消化がよく行はれて、身體も肥えるといふ譯であります。よく噛みもしないものを、幾ら鵜呑しても、偶ゝ胃腸を損す位のことで、とても肥つて赤い頬に成ることは出來ませぬ。

この齒の惡いことから引いて、身體の榮養が惡くなり、從つて、人間の發達に如何なる影響を及ぼすものであるかと云ふことに就いて、ラーゼ氏は二つの例を擧げて居ります。乃はち一つは齒の病氣と徵兵檢査で、も一つは齒の病氣と學校兒童の身心狀態の檢査であります。而してこれを統計で示したのでありますが、新兵の中で齒の良いものは、その惡いものに比べると、一般に目方が重く、胸の圍も廣く、眞に兵士たるに適して居る。而してこの身體の發育の不完全と、齒の病氣とは、互に平行して居るもので、何れも一つの原因から來て居ると見做さなければならぬ。乃はち小兒の時より石灰質の榮養の不十分なことなどであります。又一方より見るときは、齒の惡いのは、直接の原因となつて、身體の發育を妨げるとも見做される、と云ふのは、新兵の中で、

齒科醫の關係あるものは、一般に他のものに比べて身體の發育が善かつたからであります。

その學校兒童に就いて調べた成績は、次のやうなものであります。

第一に、齒の惡い兒童は、その爲に非常に身體の發育を害されて居る。第二には、身體の發育の不完全な兒童程注意力が乏しい。第三、齒の惡い程、一般に仕事の成績がよくない。

以上は、ラーゼ氏の實驗の大略で、恐く理に當つて居るか、どうかは存じませぬが、兎も角も、吾々の間て考ふべきことであると思ひまして、御參考に供する次第であります。

すこやかにみをやしなはてなにかせむ
くににつくすちからなりけり

鍋島直大

育兒

學童の看護（承前）

秋山柴朗

小兒に夜の食事を多く與へると、すぐ眠りにつくことが出來なかつたり、又熟睡の妨げとなることが隨分ある、又液體或は、液量の多く含んだものを過分にとらせぬ方が宜い。夜の食事が濟んで後に、小供のために苦しい程の仕事をさせるもよくないし、また茶とか、咖啡の樣な興奮するものは、與えてはならぬ。

小兒に夜更しをさせることは小兒の不健康を招待することになる。

小兒には、一切夜更しをさせぬやうに定めて置きたいものです、例へば、芝居、音樂會などの場所へ連

れて行つたり、又晩くなつてから、いろんなものを喰べさせる様なことは、健康を破る資本になります。

思春期に於ける子女は斷崖の上に彳んで居るやうなものである。

この時期の注意は、一層大切で、一度誤らば、とりかへしのつかぬことになります。すなはち丁度十二歳位から十三歳、十四歳の頃である。娘の兒は、男の兒よりも一年か、二年程早く現はれて來るのが、普通であります。

此處が丁度六道の辻の様な場處である。

將來立派な婦人になるか、否かの判決を得る大切な大切な時である。今までは、童子の様にして遊びもし、話もし、又亂暴なことも爲た、けれども今日より後は、決して童子と一様に取扱はれべきものではない。

精神上にも、肉體上にも種々の變化が現はれて參ります。

今までの少女は、今日より婦人の世界に移るのである。人生の花がこれから咲くのです。

今までは、飛んだり、跳ねたりした少女も、頓に大人しくなり、外に出ることを好まぬようになります。

又種々の事柄を感じ易くなり、少しのことにでも、兎や角思ふと云ふ有様であるから、餘程注意をして適當の運動、消化し易き食物をとり、刺戟性のものはこれを避けるやうに、且アルコホル性飲料は、與へぬことにきめて置きたいと思ひます。

又童兒にありては、次第々々に鍛錬を進めて、或は冷水浴、或は、身體運動、固きもの丶上に寢る習慣眠つてから、手を蒲團の上に出すやうに慣すことも必要である。

談話、傳說、小說等に對しても餘程の注意を拂はねばならぬ。

精神の感動を與へる種類のものは、すべて避ける方が宜い。

（完結）

家庭衛生

衛生雜話

H. S. 生

(四)小兒死亡の話

何處の國でも最も多數に死亡するのは、生れてから五歳になるまでの間で、就中一歳のうちに死んでしまうものが多いのであります。

これは、種々の原因によるのであるが、嬰兒の身體は、例へば樹木に比すると、丁度二葉の様な時代で極めて弱いから、僅かのことにも害を受けますけれども、既に亭々たる巨木となると、はげしい雨風にも堪へ、繁る枝葉の蔭には鳥の巣をすら作らしめるやうになるのと一般雲つくやうな大の男でも、小兒のときは、抵抗の力が弱いし、又食物も他人に仰ぐのであるから、此時代に多く死ぬるのは當然のことであります、從て此時代には十分の看護をして、小兒の抵抗力を強くせねばなりませぬ。

普通のものでも抵抗力が弱いのであるから、例へば早產のものとか、或は、弱い遺傳のあるもの、其他身體に申分のあるものが、早く死ぬると言ふことは當然のことであります。

看護の如何によりて、死亡數に影響を及ぼすことも見易き道理である。又身分の關係も、矢張感作をうけます。

我國の人口動態統計によりて、小兒の身分について死亡數を調査した所に據ると、實に次の如くになつて居ります。

小兒死亡數（生產百につきての死亡數）

		卅二年	卅三年	卅四年	卅五年	卅六年	卅七年
出生より満一個月	嫡出子	七・一	七・一	六・九	六・八	六・七	六・五
	庶子	一五・二	一四・二	一三・七	一一・六	一〇・九	九・五
	私生子	一六・七	一六・三	一五・四	一五・二	一四・五	一四・二

出生より滿一個年						
嫡出子	一四・七	一四・七	一四・四	一四・三	一四・二	一四・四
庶子	三三・六	三三・六	二九・六	二九・六	二七・七	三六・六
私生子	三四・七	三三・九	三二・六	三〇・五	二九・八	三一・六

曾て英國に於て、百萬人の小兒中、一歲の時に死亡するものゝ數を檢査したことがあるが、その區別は左の如くである。

第一には、早產、衰弱又は滋養缺乏のために死亡するもので、一四九四九二人。

第二は、神經病によりて死するもの三〇六三七人。

第三は、呼吸器病によりて死するもので二一九九五人である。

死亡の原因は、痙攣、下痢、氣管枝炎、肺炎等重なるものであるが、尙其他にも種々なものが含まれて居るであらう。

千八百八十年より千八百九十年に至るまでの統計を見ると、エステルライヒでは、第一歲の小兒死亡數は、百人中の二十五人で、丁度四分の一は、死亡するわけでありますが、就中出生第一個月に於て多數を示して居ります。

榮養の種類は、死亡數に大なる關係を及ぼすもので

フリードライヒ氏が、ミュンヘンで調査した處によりますると、小兒百人中母乳榮養兒の死亡は、十八人、乳母榮養は三十人、兩方共同したもので五十三人、全くの人工榮養によるものは六十三人と云ふ多數を示して居ります、何と驚くべきことではありませんか。

已に右に述べた如く、小兒自己の抵抗力の弱いと云ふことは、素より事實であるが、然し親の健康狀態並びに生活の習慣と云ふものに、大なる關係を有することは、見逃してはならぬ事柄である。

小兒をして強く、健全に、而して抵抗力を大ならしめんとするには、消化の障げと、榮養の害とを取除くやうに、早く注意して看護をするのが大切である。

年の若い母親、或は小兒を養育した經驗のない人は、小兒衞生法を一通りは辨へて居ることが大切であります。殊に榮養のことは詳しく知つて居る必要があ

る。このことに就ては、改めて又の日にお話をいたします。

衛生小言（承前）

婦衛冠者

軟かいもの硬いもの

衛生とか、養生とかいふと、凡て病人の眞似をすることのやうに心得てからに、要りもせぬ藥を飲んであてもない病氣の豫防だなどゝ考へて居るものもあるが、食物も病氣に依ては、適當なものを撰んで、適當に料理しなければならぬ。そこで運動の出來ぬ一體に身體の働が衰へ、殊に胃や腸の疾ある病人には、槪して軟かな消化し易い食物を與へるが、あながち齒あたりの柔いものが消化が善いといふ譯のものではない。例へば搗きたての餅は、誠にすべ／＼して柔いが、餘り消化の良いものでない。これよりも堅餅をかり／＼に燒いた方が餘程消化が善い、といふのは、搗きたての餅は軟かいから、餘り咀嚼ないでも、嚥み込めるが、堅餅はどうしても軟かになるまで噛まなければ、咽を通す譯にはゆかない。玆でまづ一つ消化液の一なる唾液が、柔かい餅よりも堅い餅の方によく混ぜられることになる。而してこれが胃や腸に到つても、緻密な餅は、消化液が中まで浸込みにくい、矢張よく噛み砕かれて、十分唾液を混ぜられた餅の方が、遙に消化の善いとになる。そればかりでなく、健康なものが、病人のやうに、何でも常に軟かいものばかり選んで食ふならば、齒でも、胃でも、腸でも、段々弱くなつて遂に其の眞似をした病人同樣になるであらうと思ふ。我邦の儀式に隨分古くから齒固といふことがある。この餅は元來軟かいものを用ゐたものか、堅いものを用ゐたか、よく知らぬが、齒を固める目的には、どうしても堅いものでなければならぬ。軟かいものは齒に粘ばり着いて、齒を害するであらうが、堅いものはこれを噛むによつて、齒を掃除するやうなものであ

る。且つ堅いものをよく噛めば、唾液も十分に分泌され、齒槽、齒齦、咀嚼筋なども强くせらるゝ譯である。これは凡て只軟かい食物が善いといふ誤を正す爲に一例を擧げたに過ぎぬ、決して硬い不消化なものが善いといふのではない。

茶の飮み廻しと杯の獻酬

茶は適當に飮んで宜敷いが、彼の茶の湯といふものは、風雅のすさびで、自ら衛生的に適つて居るやうな所もあるが、隨分非衛生の所も尠なくない。特に濃茶の飮廻しなどは、何れの點から見ても感服の出來ないものである。第一彼の飮むといはんよりは、寧ろ啜るといふ方が適當と思はるゝ薄茶、况んや濃茶といふものに至つては、その名の如く、甚だしく濃く、泥のやうに捏ねるのであつて、これを飮めばかなり興奮する。慣れぬものは眠を妨げらるゝに足る、而してこれが、コ、アなどのやうに榮養分に富んで居るものでもない、主としてコーヒーのやうに興奮するので、逆上せるとか、通じが惡るくなるとかいふ傾がある。以上は害に近い方面を主としていふたのであるが、多少の效能も無いではない、然しなるべく煎茶の方で間合はせるやうにすればよい。これは茶そのものについての話で、濃くない實際の薄茶は一服ぐらゐづゝ飮んでも別に害にもならぬが、これを飮む方式に至つては、非難を免れない。薄茶でも一人服み終るごとに洗ひはするが、その洗ひ方たるや、極めて簡單なもので、とても衛生的の清潔法ではない。一碗の茶を數人で飮み廻す濃茶などは全く危險なものと云はなければならぬ。各その飮口に幾千の細菌を附着けて、其處を不潔な指端や、紙などを以て拭いた位では、少しも清潔などの意味にはならない。これは是非彼の耶蘇敎の晩餐式に用ゐる葡萄酒の飮み廻はしと共に、全廢する方がよいと思ふ。

酒の效能、その害毒に就ては、今玆に述べることを省くが、これを全廢すれば、一も二もない話であるが、こゝ五十年や百年で、儀式に迄も酒を全く禁ず

るやうになるとは思はれない。それでせめては、その飲み方に就てばかりも衛生的の方則を守るやうにしたいものだと思ふ。これにも色々の事があるだらうが、今その一つとして杯を獻酬すると云ふ習俗は是非これは廢さなければならぬ。或人の調によると一杯の酒を一口に飲みほす時には、その杯の壁に著いて居る黴菌の數は、八千一百六十で、十杯の酒を飲干した時、即ち十回脣を杯に觸れた時は、二萬二千二百二十二であるといふ。又一杯の酒を二口に飲み干した後で調べて見ると、その杯の縁に附著して居る黴菌の數は、實に二萬〇八百五十四で、これを殺菌水で濯いだ後に調べて見ると、未だ一萬三千三百〇七殘つて居た、即ち僅に五千五百四十七の細菌が洗ひ落されたに過ぎなかつたと云ふことである。これに依て見ると、杯の獻酬には、お互にこの無數の細菌を差上げたり、頂戴したりして居る譯で、この無數の細菌の中には、種々雜多のものが在る。時には結核菌を始として、怖るべき病原菌も混り兼はしない。盃洗で洗ふたら善からうなど丶心得て居るのは寧ろ滑稽である。今の例の如く、一寸洗つた位では半分も落ちない。殺菌水、即ち細菌の居ない水で洗つてさへ此通りである。それを一つ盃洗、しかも始から幾多の細菌を含んで居る水を湛えた盃洗で以て、幾人かの人が數時間も、その口中の細菌を洗ひ混ぜた水が、何の清潔を意味するものであらう。益〻種々の細菌の混合物を杯全體に塗り著けると云ふまでのことである。これを以て觀ても、杯のやりとり、茶の飲み廻はし等の如何に不快なる惡習であるかゞ分かるであらうと思ふ。

こゑたてゝうりありくなりかたいこの
あはぬくすりとひとはしらすや

千日亮

寄書

口繪に就ての說明

新潟贊成員　本山捨五郎

新潟縣東頸城郡浦田村傳染病院の實景を寫したので有りますが、田舍の山間地では、誠に不便のもので都會の地には至る處に立派なる病院がありまして、院内に傳染病室とか、又は通常患者室とか、何々患者室とか區別してある。又別に傳染病院を立派に建設しある場所も御座いますけれども、田舍では病院とて一郡に漸く一二ヶ所、土地に依りては一郡に病院の無き郡もあります。然るに我地方に於ても、去る明治二十九年以來、年々赤痢病が流行するので誠に困難を致したのであります。夫れで傳染病が發生致しましてから、其患者を一々數里十數里の處迄運搬すると云ふ樣な危險の事は出來ませんから、各村に傳染病院又は隔離病舍を建設して、此所に入院治療を施す事に規定されてありまして、我浦田村傳染病院の如きも明治三十年に設置しましたので、其當時は、縣下にも數少ない位の完全のものでありましたけれども、其後追々各所に規定に依り完全なる傳染病院が新設せられまして、只今となりましては浦田村の如き傳染病院は劣等となりました。

實は最早數年前に改築せんければならないので有りますけれども、戰後經營の今日尙ほ止を得ざる村事業の爲め、村の經費も年々非常に加算し來るもの故遂に今日に至るも現在のまゝで居りますが、都會の地に住んで居らるゝ御方には、完全なる立派な病院のみ御覽に成つて居りますから、實におわかりにならんでせうと思ひます。例へば、結構なる御茶や御菓子のみ御食りに成つて居ると、常に變りはないけれども、粗茶や粗菓の一二回も御食りになると、今度は、良茶良菓の風味が眞に知れてくるとか、又常

に氣樂安樂に暮して居なさる御方は、日常なれば變りもありませんが、其間に何か突然と心配苦勞する事が出來て來まして、其苦勞心配が終つた其當時は全く安心と氣樂なる事が殊に知れると、同じ事で有ります。依て田舍山間地方の傳染病院の眞景を皆樣の御覽に入れ置きまして後日の御參考とも致したいと思ひます。

本寫眞の大形は、十月下旬患者悉皆轉歸し、病院一ト先閉院せんとする當時現在の有樣を撮影したのであります。小形の方は、同日病院內診斷室に於て、雇員解雇するに當り、雇員の健康診斷する現景を記念として撮影したので有ります。當地は冬に成りますと十尺以上の積雪になりますから、病院の建物の如きも、不完全の建物は雪の爲めに皆破損しますから、大丈夫なる建物の本院丈けは、其儘置きますけれども事務所、炊事場、看護室、其他の小さき附屬建物は、冬季の患者のなき時期には皆取くづして置くのであります。而して春雪消える時季を待ちて設備するのであります。

斯の如き狹小なる病院で、數十名の患者を收容し、設置以來最も繁雜を極めたるは、明治三十八年中で有ります。其年の實況に就ては、明治三十九年五月二十三日發行本誌第百九十八號中三十四頁より三十七頁の間を御覽くだされば、詳細に說いてありますから、何卒御參照を願ます。尙ほ新築を致しました時には、其實寫を贈りて、御覽を願ふ積りであります。

夏季注意事項

同　氏

皆樣は、衞生と云ふ事に就きましては、每月の例會に於て、各博士、學士、諸大家の講演を御聞きに成り、充分御承知の事で有りますけれども、重ねて注意を御願致す事は、御小兒方に就てであります。御承知の通り、御小兒方に成りますと、飲過食過すれ

ば、身體に害となるの御考が有りませんから、御菓子であるとか、果物にても同じこと、其他の各自の御好みになる食物で有りますと、前後構はず、充分胃に入る丈け御食りになる。又飲料水例へばラムネアイスクリウム其他糖加氷水等になりますると、大概のお小兒方は、滿腹する迄御飲みになるとする、之れを傍らにて、母親樣や、子守の人が、適度の時に止めんとすれば、大聲を發して泣くとか怒るとか致して、一時何とも致し方なき程になるから、止むを得ず前の御好みの飲物、食物を進めて、氣嫌を直すことが澤山あります。斯く致しまするとムふと、お小兒方は、未だ身體未發育、殊に夏は胃や腸が軟弱に成つて居りますから、少しく過度の飲食又は不消化物を攝取致しまするとムふと、忽ち胃腸に障りて、吐き又は下痢し、熱を起し易くなりますが、此時に注意しませんと、他病を引起す事が屢々あります。

此れのみならず、尙ほ御注意を乞ふのは、夏の夜寒冒の豫防であります。冬は皆樣が寒さに應じて、自然重衣著を致しますから、割合に身體にも障りませんが、夏日中の炎熱が夜の十時すぎ迄屋内に含畜されて有りますから、夜眠りに就き成さる時分には、身體が暑つくるしいから、ねまきも殆んど腰部以下にのみ引掛け居て、後ちに眠りに就く以前に能く著る位の積りで居るけれども、夜がみじかくて、ねむいから、知らず／＼の間に就眠して、數時間の後に目がさめて、驚いて衣を著直すと云ふ樣の事は、屢々有り勝ちのもので、殊にお小兒方の時分には隨分眠中知らず／＼身を動しますから、或は母の懷中より動出て亦はだかと成り居る事もあるですが、斯の如き事ありては、尤も身體に障ります。忽ち胃腸や呼吸器に加答兒性疾病を起し安くなりますから、注意を願ひたいので有ります。左に一二の注意事項を

一、出來得る限りは、小兒樣に飲食の回數を定めて間食せしめざる樣に注意の事、

二、食物(菓子、果物等)を以て殆んど玩具的に食し居る者がある斯の習慣を附けず器具(樂器、美術品等)を以て心を慰める樣に注意する事。

三、泣く時には空腹と身體障碍、疾病の有無とを診し空腹又は身體に異常なき限りは猥りに乳又は食物を進めず玩具を以て氣を慰める事。

四、烈暑の日中は成る可く頭腦を日光に直射せしめざる樣充分保護する事。

五、晴天の日に急に雲出て俄雨ある時は此雨に接せぬ樣注意する事、是れ尤も身體に害となるなり。

六、夜就眠前には殊に注意し小兒樣方には腹卷又は寢衣の整着に注意し腹部を冷さぬ樣にする事。

貴重なる本紙上に於て不得要領なる事のみを申述べ誠に御迷惑で有りましたで御座いませうが幾分の御參考となる事が有りますれば之れを以て誠に光榮とする次第であります。

附記

右口繪に就ての説明中にある如く本山氏より大小二葉の寫眞及び所載口繪の略圖説明を寄贈せられたるも編輯上の都合により小板並に略圖説明は之を掲載し得ざりしを遺憾とす看者之を諒せられんことを

（編者）



衛生（明治四十二年六月五日御兼題詠進寫）

いへのうちをあさなゆふなにはききよめ
あかつくころもみになまとひそ
多嘉王

うるはしきしなえらふにはあらねとも
いへもそのみもきよらかにせよ
同　妃

おのつからくにもつよくそなりぬへき
ひと〳〵のみをすくよかにせよ
高崎正風

渡邊千秋

たみくさのかすこそまされすこやかに
おほしたつへきみちもひらけて

鍋島直大

すこやかにみをやしなはてなにかせむ
くににつくすもちからなりけり

北小路隨光

みをきよめいへをきよめてあさなゆふな
こゝろにちりはすゑしとそおもふ

津輕承昭

おのかしゝみをまもるよとなりにけり
ひなのいへゐもちりをきよめて

井上通泰

おほみめをあらひたまひしかみよより
ひらけそめけるみちそこのみち

西三條實義

よのなかのすゝむにつけてみをたもつ
わさもさま〳〵ひらけつるかな

梅溪通治

みをきよめちりをたえすもはらふこそ
いのちをのふるはしめなるらめ

長谷信成

おこたらすみをやしなはゝいたつきの
いることしらてなからへぬへし

藤井行德

むらきものこゝろのちりをはらひてん
いへゐきよめてみをまもるよに

唐橋在正

おもしろくよをおくるにはこゝろして
わかみをまもるほかなかりけり

日野西光善

あさゆふにこゝろをこめてやしなはゝ
やまひのきさすときやなからん

東坊城德長

くにのためつくさむひとはあさゆふに
みをやしなふもつとめなりけり

梅園實師
みをまもるみちのひらけしきみかよは
よもきかしまもおもはさりけり

町尻量弘
こゝろしてみをやしなははなにはかた
あしきやまひもねさゝさりけり

清岡長言
つねにみをまもるひとこそおのつから
なかきいのちをたもつなるらめ

清岡寀子
みをきよめいへをきよめてすまひなは
やまひのたねはのこらさらまし

常盤井堯煕
たゆみなくまもらさらめやたらちねの
おやのかたみのこのみとおもへは

柳原愛子
おこたらすみをやしなははたまのをの
なかきよはひもたもたさらめや

藤枝雅之
おのかしゝみをやしなふもひとのよに
つくすつとめのひとつなりけり

金子有卿
ちりひちをはらひしやとはあしひきの
やまひのひそむくまやなからん

金子瀧子
けかれたるものみなひゝにとりすてゝ
やまひのたねになさしとそおもふ

小原適
あさゆふにちりをきよめてみをまもる
いへはやまひのいらしとそおもふ

澁谷隆敎
ところへのいのちならねはこゝろして
われとわかみをたもたさらめや

千種任子
きみかよのひらくるまゝにくにたみの
やまひをふせくみちもまよはす

おこたらすいへをもみをもきよむるは
よはひをのふるもとゐなりけり
岡　胖子

ちりあくたいへにとゝめすこゝろして
やまひのたねをよにたやさなむ
姉小路良子

みをまもるみちもひらけてとしことに
おきてたゝしくなれるみよかな
中川忠純

えやみせしせしとたかひにふせくこそ
やかてもくにをまもるなりけり
坂　正臣

おこたらすくすしのみちをまもりてそ
あしきやまひにかつへかりける
津守好子

やまひてふあたをふせきてのちにこそ
きみかみたてとなるへかりけれ
猪熊夏樹

むらきものこゝろのちりをはらふこそ
みのやしなひのもとゐなりけれ
平田三枝

すゝみゆくよはいくくすりのまねとも
やまひをさくるみちはありけり
荻原巖雄

やみてのちはしめてしりぬやまぬひに
かねてやまひをふせくへしとは
中村秋香

こゝろせよおもきやまひももとはこの
ちりひとつよりおこるなりけり
鎌田正夫

いたつきのみにいることもおほかたは
こゝろのたゆみありてなりけり
大口鯛二

こゝろせむたゝひとつきのしみつにも
やまひのたねはありとこそきけ
千葉胤明

みをまもるみちにかなひてすくやかに
　ありへむよこそたのしかるらめ　　須川信行

みをまもるみちはとし／＼ひらくれと
　はやりやまひのねこそたえせね　　遠山英一

おきふしにこゝろをつけてやしなはは
　みにはやまひもあらしとそおもふ　　粟田口顯久

おそろしきやまひのいらんひまもなく
　いへをもみをもつねにきよめむ　　倉橋泰昌

みをきよめこゝろすませはあしひきの
　やまひとつもるちりもけつへし　　尾崎宍夫

あつふすまこゝろにかけてをさなこに
　ねひえせさすななつのよな／＼　　加藤義清

こゝろをもみをもきよらになすことは
　かみのよよりのをしへなりけり　　鈴木小舟

たらちねにうけたるこのみすこやかに
　たもつそひとのつとめなりける　　岡山高蔭

米の話（明治の家庭七月號）

紅童

▲東京に集まる米の種類

日本は昔から『豐葦原の瑞穗の國』と申しまして、農業が非常に盛んで、到る處米が澤山取れます。そこで東京に來る米は澤山で種類の多いこと實に夥しいものであります。

一方は南海、西海の果から、他方は東北、北陸の極の内地米は申すに及ばず、遠くは、臺灣、支那、朝鮮の外國米に至る迄、天下にありとあらゆる米は集

つて居ると申してよろしいのであります。

▲何處の米が一等よいか

斯の様に非常に多方面から、種々なる米が來て居るのですから、小さく分けて善惡を論じた日には、殆んど際限のないことですから、茲には極大體に就いてお話いたしませう。

東京では昔から、伊勢、武州(武藏の國)のを關取米と云つて、尊びます。一體、米がよくつて甘いと云ふのは、あまり乾燥過ぎず、濕氣過ぎず、中庸の乾燥のものが最もいゝので、之を國別で申しますと、攝津、河内、和泉、伊勢の一部、四國、就中讃岐、肥後の一部でありますが、極大別して申しますと、概して九州はよく乾燥して居り、東北は乾燥不十分で、其他の地方のは一體に乾燥し過ぎて、堅いのであります。

▲無砂米と混砂米

無砂米は讀んで字の如く、砂を入れないで、木搗にしたのでありますが、此の木搗と云ふのは、時間が長くかゝるから、早く搗き上るやうにする爲めに、備州砂とか、房州砂とか云ふ白色の砂(砂利、礫にあらず)を混ぜて搗くのであります。ですから、同じ二等米にしましても、無砂の方は價値が高くて、混砂の方は安くなるのであります。混砂は價値は安くても、食べて甘味が少く、衛生上にも惡いのでありますから、矢張り損であります。

▲奸商人の惡手段

信用ある大きい店では、店の暖簾にかゝりますから殆んど惡いことはいたしませんが、小店では、いろいろ惡手段を行ひます。

先づ古から行はれる方法は、キンタマと申します量り方で、前垂の下に桝を挾んで居て、胡麻化した量りをするのでありますが、なか〳〵巧みなもので、上手なのになりますと、その道の黑人でも分らないやうにやりますから、その時は米が十分あつたやうに見えても、一升やそこらは缺けて居るのでございます。その胡麻化しを看破るには、前垂に注意し、

怪しいと思へば、前垂を取らせるに限ります。けれども、又キンタマの方法でなくとも、量り方が如何にも巧みですから、素人が量つては九升若しくは八升のものでも、黒人ならば一斗に量れます。ですから胡麻化しにかゝれば商人が勝ちであります。

▲輕便製米機の一升二合減り

近頃、輕便製米機と云ふ器械が、出來て居ますが、これは、普通の木搗の器械で、百俵の米が搗けるものなれば、二百俵も三百俵も搗けるのですが、これは非常に米に熱が起ります。そこで熱の爲めに米がひどく膨脹れて、大きくなります。米店はそれを惡用して、今日配達するのは今日搗いて、持つて參ります。すると、持つて來た時は一斗の米があつても一日置きます。冷えて小さくなりますから、八合減つて九升二合になり、二日目には四合減つて、八升八合となります。三日目からは、左程減りませんけれども、二日の中に一升二合の減が來ます。

▲三等米を二等米にする

不正直な店によりますと、華客先から、『今日中に二等米を屆けて呉れ』と云はれた時、丁度都合よくあればいゝけれども、品切れと云ふ樣な場合には、知らぬ顔の半兵衛で、三等米を持つて行く、『先日の米は、どうも不味かつたよ』と云はれることがあれば、『そんなことはない筈でございますが、お宅樣には、もう殊に吟味して差し上げるのでございますから、ヘイ』と白つぱくれて居るのもあります。

▲カビ米の搗き直し

それから又カビが生えたのを、又搗き直して、一等米に混ぜて二等だと賣り、二等米に混ぜて三等米と賣ることもあります。なか／＼油斷のならぬことであります。

▲善惡はどうして見別れるか

乾燥の強いものは、殖えて水引がいゝのでありますけれども、堅くて、ぼろ／＼の飯になり易く、濕氣の多いのは、水引が惡くして殖えず、軟かいジタジタの飯が出來、カビ易いのでありますから、最もい

いのは中庸の乾燥米であります。
次には、噛んで甘味の多いもの、稗とか、籾とか混り物が少いもの、形から云へば、小粒で少し長みのものが最上で、やゝ大きくて長手のものが第二で、長くて丸くて太いのが其の次で、大體から云へば、長いにせよ、丸いにせよ、又、大きにせよ、小さいにせよ、粒のよく揃つて居るのは、いゝ米だと見て間違はないのであります。
次に、玄米でなら皮厚くなく、白米でなら糠が薄すりと着いて居るもの、次には、米全體が飴見たやうに透明で、白い部がないもの、白い部分が多くなればなるほど下等であります。

▲砂の有無と搗直し米の見別け方

純無砂のものは、掴んで握れば、如何にも軟かい、恰も羽二重を握るやう。混砂のは、之に反して、恰も木綿を握つたやうにゴツ〳〵して居ますから、暗夜でも分りますが、ずるい商人になりますと、見て知れないやうに、砂をふるい落しますから、目では一寸區別がつきません。
搗き直しは、赤いカビが生えた米を搗き直したのにいゝ米を混ぜて、賣るのでありますが、これはよく見ますと、白い米の中に、チラ〳〵と赤味を帶びた米があるので分ります。こんな米は又直にカビが生えて長くは保ちませんし、食べても無論毒であります。

▲臺灣米と朝鮮米

米の等給は普通一等から五等迄ですが、その以下は混ぜ方次第で十二等位までも分ることも出來ます。四等米にはありませんが、五等以下には、臺灣米或は南京米が混ります。普通の米の中に、間拔けて長いのがあるのは、外國米の混つたのであります。朝鮮米や攝、河、泉（畿内）の米は、甘はよいのですが、石が多くて困り、南部米は乾燥不十分で、籾が多いのであります。

▲保存法

夏殊に梅雨期にはカビが生じ易い、少し濕氣の多い

ものならば尙更でありますから、保存法をよくしなければ、カビ米を食べると、米の中毒から來る脚氣病に罹り易いのであります。第一の保存法は、夏は風通りのよい處に置くこと、第二、米櫃の掃除、前の糠が殘らぬやうに、又、蟲などの綴り寄せたものをよく清潔に落すこと、竈や火鉢の傍、又は西日のあたる所に置かぬこと、入物は木櫃よりも、瓶によく蓋をして入れるがよいのであります。保存法が惡ければ、一週間位で、米の目とて缺けた處からカビを生じて、赤くなり、次に靑みを帶びて來ます。

▲水が澄む迄研げ

飯が甘い不味は、大に研ぎ方によるので、よく研ぎさへすれば、うまくて、長く腐敗することがありません。然るに夏はさうでもないが、冬などになりますと、冷たいので、ザット研ぎますからまづい。水が立派に澄む迄、研がなければいけません。

▲うまく炊く法

同じ一等米二等と云つても、その米の性質卽ち乾濕の差、產地の異によつて、堅く出來るのもあれば軟かく出來るのもあり、又、女中の下加減、燒き方によつて、甘くも、不味も出來るのですから、双方に注意をしなければなりませぬ。

最もうまく出來るのは、いゝ米を下搗にして、二三升を藁火で燒くに限ります。次には薪、その次が石炭瓦斯で、最も燒きにくいのは瓦斯であります。最初は成る丈、火を勢よく燒いて、フーッと沸り上つた處で薪を引いて、燒え屑や、火を後に殘して、それでよくむらすことであります。火をグツ〱燒いたり、中途で蓋を取つて中を覗いたりしますと、半蒸の御飯が出來たり、沸り上つてからも長く燒いて居ると黑焦のが出來たりします。これは花嫁樣方が御經驗なさつた所でありませう。

▲礫を一々拾へ

米に礫があるのは、搗く時に入れるのでなくて、產地によるのです。礫の多い處のは、米は甘くても、石を噛み當てる爲めに、甘味がなくなる、のみなら

す、歯を損じ、胃、腸を惡くするのでありますから礫の多い米は研ぐ時に、女中なり、奥様なりが、よく注意をして拾はなければなりません。

攝津、河内あたりの米には、礫が多いので、大阪あたりでは、研ぐ時によく女中などが、一々拾ふ習慣がありますからいゝのですけれども、東京の女中などは面倒臭がりますし、又、奥様などもあまり注意をされないからいけません。

▲お米の買ひ方

東京の様に一圓を單位にした同じ買ひ方でも、懸で買ふのと現金で買ふのとは、非常の差で、一圓に就いて二合三合は必ず違ひます。懸に賣ると年に一割若しくは一割五分は懸け倒れがありますから、その損毛を正直に金を拂ふ方に頭割に最初からかけて居ますから懸買は非常に不經濟であります。又、小店であれば、玄米を産地から運んで白米店の手に入る迄に、五度六度と人手に渡つて來るのでありますから、その間に口錢がよほど懸つて、高くなるのであります。處が大店になりますと、直接に産地から取り寄せて、自分の製造所で白米となして、販賣することが出來ますから、口錢がかゝらず、安くていゝものが賣れるのであります。處が、二等米を大店で一圓に五升五合であるのに、他の小店で六升一合で賣ると云ふことがありますが、これでは小店の方が安いからよいではないかと思ふ人もありませうが、安いから必ずよいとは申されません、前に云つたやうに、小店ではどうしても、そんなに安くして引き合ふ道理がないのでありますから、其處には素人方が分らないのをいゝことにして、惡いので胡麻化すのであります。但し一寸喰べたのでは、さう分るものでありませんから、それで濟むのでありますが、見別がよく出來ぬ方は信用ある大店から現金で取るに限ります。

バナヽの成分（藥石新報第六八七號）

近時何れの果物店にも、人氣ものとして持て囃されつゝあるバナ、即ち芭蕉實に就き、獨逸の藥學者アルキユー氏の分析したる結果なりとて、此程公表せられしもの左の如し。

水	七四・六〇
灰分	〇・八六
脂肪	〇・九九
含窒素物	一・四四
抱水產物	二一・九九
植物纖維素	〇・八七

更にマリアノ氏は、右抱水產物を分析して

蔗糖	八・九〇
葡萄糖	六・四〇
澱粉	三・三〇

を示し、尙ほ灰分中には、少なからざる鐵分を含み無害にして消化し易く、滋養價頗る大なり。故に之を挫切して、日光に乾燥し、粉末となし、更に高熱を加へずして、糖糕或は果餠となすときは、澱粉は糖類に化し、加ふるに消化性酸酵素をも含有するが故に、善良なる滋養物として使用し得べし云々。

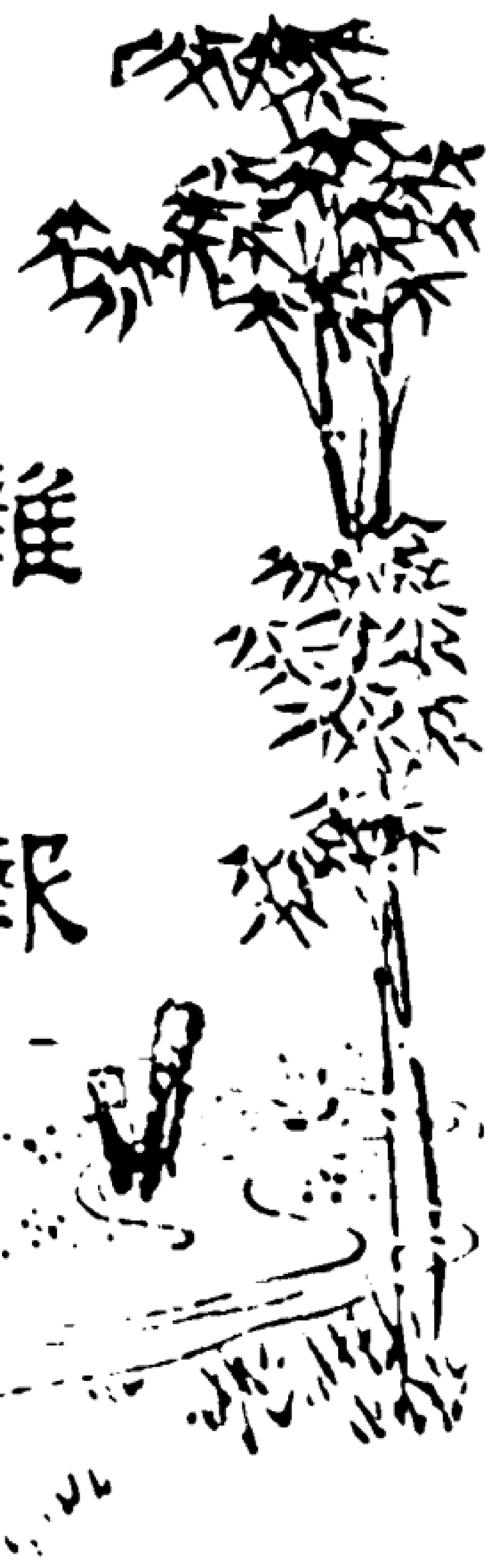
鷄卵貯蓄法（治療藥報第五十號）

水十リットル、水硝子一リットルを能く混和し、此中に卵を蓄ふ。注意すべきは、新鮮なる物を用ふる事にして、且つ殼皮の無傷なることである。又サリチール酸ナトロン一分、水九分の液を製して瓶に盛り、此中に卵子を貯ふ。百個迄は妨けなし。半紙にてよく密封し冷處に置くべし、八年來の經驗に徵し、奏效受合なり。此卵子を煮る時には、針にて小なる孔を穿つべし。否らざれば、氣孔の塞り居る爲め破裂することあり。

新刊紹介

化粧のをしへ（東京化粧研究會編纂）

表裝、紙質、印刷、その體裁善美を盡せるものと稱して可なり。緒論に於て皮膚の解剖生理を明かにしその強固法並びに淸潔法を說き、主として婦人の皮膚毛髮に關する萬般の化粧法及び化粧品に就き、一一現時の學理上の見地に基づき、極めて平易に實用を旨として說明せるものにして、その美貌を損する病的原因を内外に區別し、各項これに對する豫防注意の法を示せり、輓近衞生的美容法の教科書として推薦するに足れり。(正價金六十錢)



雜報

○東京市の塵芥掃除

東京市内一ケ年の塵芥は五千九百十四萬五千四百四十五貫の豫定數量にして、その肥料となるべき分は千葉地方に出し、燃料となるものは湯屋に廻し、その他の捨塵は深川平久町地先にて燒棄することゝなり居れるが、請負人の不正、不取締等より完全を期し難きを以て、過般市參事會に於て大改革を實行せんが爲めに、掃除成績不良なる四五區の請負人を交代せしめ、又掃除人夫を常雇とし、其受持區域を定め、戶每に掃除表を配布し置き掃除の都度之に捺印せしむることゝし、人夫等に對しては賞與規定を設くる等大に面目を一新する所ありしより、多少好成績を見るに至れりと云ふ。その賞與規程左の如し。

東京市塵芥掃除請負人以下賞與規程

第一條　本市塵芥掃除請負人ニシテ其ノ使用スル掃除取締人及掃除人夫中ヨリ每月三分ノ一以上本規程ニ因ル受賞者ヲ出シ且ツ其ノ請負町域內一般ノ掃除成績優等ナル者ニハ三ケ月每ニ賞狀ヲ授與ス

賞狀ノ授與三回ニ及ヒ尙行賞スベキトキハ特ニ銀盃ヲ授與ス

第二條　掃除取締人ニシテ其部下ニ屬スル掃除人夫中ヨリ三分ノ一以上本規程ニ因ル受賞者ヲ出シ且ツ其ノ部內一般ノ掃除成績優等ナル者ニハ每月賞金壹圓ヲ授與ス

二ケ月以上引續キ行賞スヘキトキハ金九十錢ツヽヲ累加

ス

第三條　掃除人夫ニシテ格別勉勵シ且ツ其ノ受持內一般ノ掃除成績優等ナル者ニハ毎月賞金五拾錢ヲ給與ス
二ケ月以上引續キ行賞スヘキトキハ金貳拾五錢ツヽヲ累加ス

第四條　本規程施行ニ關スル細則ハ市長ノ認可ヲ得テ掃除監督長之ヲ定ム

○小坂婦人會養老會

秋田縣小坂鑛山同婦人會は、去六月十三日教育會と共同にて老人優待會を催はしたるが、當日招待されたる老人は、九十歳を最高齡者として百餘名なりしが、種々の餘興を催し孰れも滿足の體にて頗る盛會なりしと。

○女子種痘技術員

韓國婦人をして同性間に種痘せしめたるに、その結果大に良好なりしを以て、警視廳にては、今回愈々韓婦人に種痘を施こす目的を以て、女子種痘技術員を募集したるが志願者三十餘名の內十一名を適當の者と認め、既に其採用法を內部に申請したりと。

○この花會婦人團の富士登山

野中夫人千代子氏を會長に、千葉秀胤氏主宰の同會は目賀田男爵夫人を始めとして左記十二名の婦人一行は去る三日午前九時新橋を發し御殿場口より登山を試みたりといふ。

男爵夫人　目賀田まつ子(五〇)、同令嬢　多計代子(一九)
英國人　ピコット花子(一四)、同　ピコットみね子(一三)
第三高等女學校卒業生　大川千代子(二二)、看護婦　常井たき子(二八)、同　小菅みな子(二九)、女子大學高等女學校卒業生　中野こよ子(二〇)、內務省官吏夫人　山田さだ子(五〇)、堀越女學校生徒　稲岡ちよう子(二〇)、其他二名

○輕井澤三泉寮

女子大學第三年生四十七名の輕井澤轉地教育は、第一期を終へ、引續き第二期として、三年生その他を同寮に收容したるが、一日中の課業は左の如しと。

△起牀　午前五時△身仕度　五時—五時四十分△當番　五時四十分—六時十分△點呼　六時十分—七時△朝食　七時△自習　八時△會　九時—十一時(全體の修養會)△晝食　十二時—一時△隨意　一時—二時△講義　二時—四時　△

随意　四時—六時へ自習及各部の會　七時—九時へ就牀
九時

大日本婦人衛生會記事

○高崎支會通信

▲例會

第七十四例會は六月二十日午後一時より同市柳川町幼稚園に於て開會左記の講話ありたり。

肉の鑑識法に就て　星野講師

當日出席の役員は

星野會長、相川副會長、三橋、齋藤、津田、土谷の各幹事

高草木、天利、山崎、高橋、新井、津田、相川の各評議員

講師は

星野講師、深町講師

▲同會銀盃披露會詳報

三十七、八年日露戰役に際し支會の會員諸婦が盡瘁せられたる功勞を嘉し、過般賞勳局より銀盃下賜ありたるに付、右披露會を六月二十七日(日曜)午後一時より本市赤坂町長松寺内に擧行されたり、數日來の霖雨、殊に當日は甚だしく、役員に於ても、會員の出席如何と氣遣へしが、熱心なる會員諸婦陸續出席百餘名に達し、來賓としては、本會より濱尾副會長、三宅評議員兩　令夫人の臨場を辱なふし當支會の光榮とする處次に深井園長、相川米吉君、深井小五郎君、星野講師、秋田講師、土谷講師、福田群馬新聞、山田上野日々新聞社員等にして、星野會長開會の辭を述べオルガン津田幹事、來會者一同起立、君ケ代の合唱、次に相川副會長　御令旨捧讀亞で本會よりの來賓に對し謝辭を述べ、次に來賓及び會員に紀念の袱紗、茶菓及びサイダー等を呈し餘興の琴曲 特別會員篠原美和賀子外三人、次に大神樂數番、來會者歡を盡して散會せるは午後六時三十分なりき。當日の寄附は左の如し。

一大神樂　星野會長寄附

一五十錢　桐澤楠太郎君寄附

當日出席の役員は

星野會長、相川副會長、三橋、齋藤、長谷川、津田、内田の各幹事、高草木、財津、相澤、天利、高橋、津田、佐藤、山崎、新井、相川の各評議員。

○山形支會通信

七月三日午後一時より山形縣女子師範學校に於て例會を開き、出席者約三十名、遠山醫學士の寒冒に就ての有益なる講話あり、終て割烹實習をなし、四時頃散會せり。

○新潟支會通信

暑さのみぎり本會皆々樣には御きげんうるはしく御出遊ばされ目出度存し上候、さて當支會にては例年の通り(七月十五日より)海水浴場を開設し衞生上の設備は勿論、風紀上の諸點をも改善致し候事とて昨今の堪へがたき暑さの際にもかゝはらず、日々盛に御座候、先づは浴場開設の御通知までかしこ。

○本會入會者

○事務所申込

●仙臺市東七番町十二　通常會員　大井上　こし子

○新潟支會

○和田くに子紹介

●　特別會員　深町　さきを子

○高田せん子紹介

●　通常會員　須藤　みせ子

●　通常會員　中田　れい子

○山形支會入會者

○戸田たき子紹介

●　特別會員　川原　もん子

○河原たね子紹介

●　特別會員　小泉　こう子

○轉居

●橫濱市月岡八へ　贊成會員　渡邊　房吉

●牛込區原町一ノ十六へ　贊成會員　北島　多一

●牛込區富久町十九へ　通常會員　森　信子

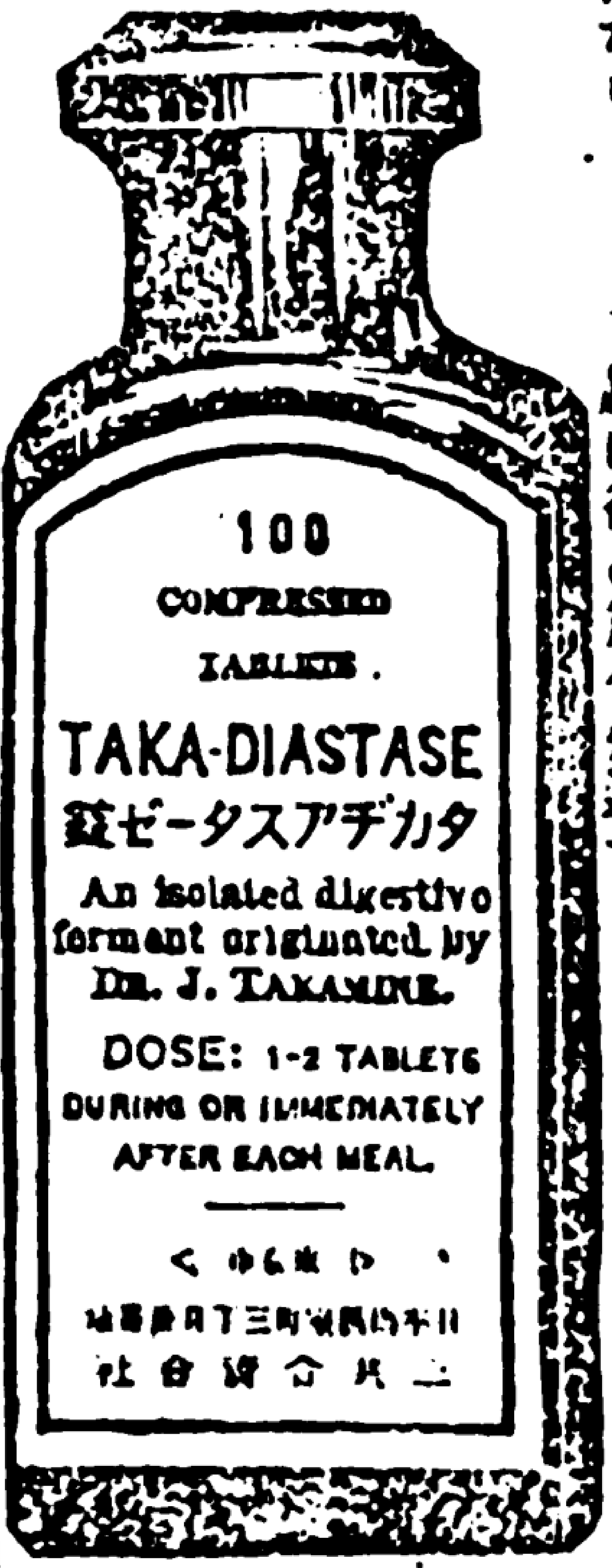
タカヂアスターゼ

●**消化不良**に就て熊本醫學専門學校長**谷口博士**は曰く、澱粉不消化の徴候たる胃の脹大疼痛、溜飲、腸内瓦斯溜積、便秘、前頭部疼痛及下痢を生じ醱酵不充分なるが爲め筋肉及體力を喪失する者はタカヂアスターゼを用ひ快速に治するを得べしと、又本邦消化機病學の泰斗**長與博士**は曰く、予の實驗に依ればタカヂアスターゼは獨り胃の澱粉不消化を治するに有要なるのみならず慢性下痢に於ける腸不消化をも治するに適當なるを信ずと、

信すべき統計に徴すれば消化不良の七割五分は實に澱粉不消化に起因す、さればタカヂアスターゼは澱粉除去に對する最も有力なる藥物なり。

タカヂアスターゼ發賣元三共合資會社は東京市日本橋區南茅場町より同區室町三丁目へ移轉せり從て當分本劑の包裝には新舊町名番地のもの混同して販賣せらる、孰れも眞正品なり

●世に幾多の摸造品及類似品あり**高峰博士發見の**ヂアスターゼを求めんには必ずタカヂアスターゼと御指定あるべし各地の信用ある藥舖にて取次販賣す



●**消化力強**大なるは總てのヂアスターゼ劑中タカヂアスターゼを第一位と爲す近く官報を以て發表せられたる**本田博士**の學位論文に徴するに坊間に販かるゝ多くのヂアスターゼはタカヂアスターゼに比し**數倍**乃至**十數倍**を用ゆるにあらざれば之と同効を收め難きなり、此くの如きは高峰博士の製法が他の總てに超絶して完全なるに由るものにして、これ以て一は**眞正品**他は**模造類似品**たることを區別し得るなり、

タカヂアスターゼの說明書は發賣元たる東京市日本橋區室町三丁目拾番地三共合資會社へ御申越に從ひ無代郵送す

●**營養增進**の目的を以て虛弱者貧血者重病者等にタカヂアスターゼを用ゆれば能く消化を佳良にし營養自ら增進し體力迅に恢復するを見る、殊に**肺結核**患者に之を應用すれば其効力著明なりされば大阪高等醫學校長**佐多博士**は曰く、タカヂアスターゼは予が數年來肺結核患者の消化補給劑として用ひ有効を認めたる所とすと、又在京の**栗本博士**は曰く今や予は實驗に基きタカヂアスターゼ、が結核患者の消化障害に對する著効を確認すと、**柴山博士**も亦此目的にタカヂアスターゼを使用したる結果多大の良成績を擧けたるを公示せられたり

●**藥効均等**論は挽近醫學者間に唱道せらる、所なり、內務省衞生試驗所長**西崎藥學士**の研究論文中に曰く、タカヂアスターゼは各購求の時日と場所とを異にするものなれども其糖化の効力は固よりグリカーゼの効力も亦常に一定せりとタカヂアスターゼの効力が常に一定なるは其特長なりこれパークデビス社の如き規模の宏大なる者に於て始めて見るべきのみ。タカヂアスターゼの用量は一回〇・一―〇・三錠劑(〇・一三)なれば一錠―二錠毎食後直に投與すべし而して此用量はタカヂアスターゼにのみ限ることを特に言明す

新案特許一〇三六二號
衛生的なる改良かもじ發賣



本品の特長

一、根元にコロップを裝置せるにより從來のものゝ如く硬からず膚ざわり軟らかなり

二、皮膚を摩擦する事少きゆゑ頭のはげる憂なし

三、頭痛癖ある婦人にも用ひて爽快を覺えしむ

四、二百度の熱蒸氣にて消毒しあれば毛髮の傳染病を媒介する憂なし

丸髷	島田髷	銀杏髷	送料
金十五錢より金七十五錢迄	金三十錢より金壹四五十錢迄	金二十錢より金六十錢迄	各八錢

諸かもじ製造販賣

東京市神田區三崎町十七番地
【振替貯金口座一八一八八番】

田中金三郎

小賣特約店

京橋南傳馬町 大西白牡丹 ― 本郷三丁目 兼康 ― 淺草駒形 百助 ― 淺草駒形 紅勘 ― 神田區須田町 三井屋 ― 日本橋通二丁目 柳屋

特約店

神田區橋本町三丁目 勝本治助
日本橋區田所町廿一 山三商店
同 横山町一丁目 安井治太郎
同 馬喰町三丁目 萬新商店
日本橋區若松町 松葉屋紋太郎
同 横山町一丁目 天野源七
同 馬喰町三丁目 阿部錠
同 橘町四丁目 角島村商店
日本橋馬喰町二丁目 飛川商店
同 横山町二丁目 江川小間物店
同 横山町二丁目 森本支店
外全國到る所の小間物店にあり

内務省衞生試驗所試驗濟

效用の概要

消毒兼用

頭髮洗、襟垢油落
絹綿布、メリヤス類
毛織物類、フランネル
毛布洗濯、窓掛敷布
看護婦服、繃帶ガーゼ類
醫家手術服、硝子器類
銀器陶器、食器類
牛乳罎及鑵、ヨゴレ物一切

孔雀印

英國プラン門會社
新發明特製專賣品

セスクイ

金五錢
金拾錢
金貳拾錢

有效無害洗濯料

警視廳免許◉旅行者必携

直輸入發賣元

東京市本郷區本郷貳丁目九番地

前島丹頂堂藥局

（電話下谷八六九番）

御用ひ方

至極簡便にして手數を省き經濟大德益比類なし故に家庭の常備品として壹本の御試用あらん事を希望す

販賣所は到る處の藥店小間物店にあり

本品は衞生上缺くべからざる洗濯料なり

醫學博士　金杉英五郎君題辭
醫學博士　芳賀榮次郎君序文
耳科專門醫　今井亥三松君編述

耳科衞生

全一冊

精圖五個插入
本綴金文字入
紙數百餘頁
正價金參拾錢
郵稅金四錢

世ニ衞生ヲ論ズル著書多シト雖モ、耳科衞生ヲ說クモノ無キハ甚ダ遺憾ナリ、況ンヤ我ガ邦耳科學ノ幼稚ナルニ於テオヤ、本書ハ編者ガ日常不幸ナル耳病者ニ接シ、其得タル處ノ經驗ヲ骨子ト爲シ以テ耳ヲ保護シ耳病ヲ未發ニ豫防スルニ當リ注意スベキ要項ハ細大漏サズ頗ル周到著實、極メテ平易懇篤ニ博採記述セル空前ノ好書ニシテ世ノ人士一本ヲ座右ニ備ヘナバ衞生上裨益スル事、蓋シ鮮少ニアラザルベシ

耳科衞生內容綱目ハ、

第一章聽器の構造及機能○第二章耳病と諸般の關係△耳病と年齢の關係△耳病と男女の關係△耳病と時候の關係△耳病の發する時期△耳病と職業の關係△耳病と遺傳の關係附說○第三章耳病の徴候△聽力障碍△耳鳴△耳漏△耳性眩暈△耳痛○第四章初生兒耳の衞生△初生兒耳の保護△初生兒耳の防護△初生兒強行劇動の危險△初生兒寒冒の注意△幼兒耵聹蓄積の害△初生兒入浴時の注意△初生兒哺乳時の注意△初生兒耳部衝打、及接吻の禍害○第五章兒童耳の衞生△學齡兒童の聽力△耳內異物の危險△耳內創傷の結果△游泳、海水浴、入浴の注意○第六章一般耳の衞生△耳內創傷△耳病と飲酒△耳病と喫煙△耳病と藥劑△耳の洗滌法△聽器の人工補助○第七章耳病と他疾患△傳染病と耳病△眼病と耳病△鼻及鼻咽腔疾患と耳病△齒牙疾患と耳病△消化器疾患と耳病△泌尿器疾患と耳病△黴毒と耳病○第八章耳病の注意

發行所　東京本郷區春木町三丁目（電話下谷五七番）　南江堂支店

私立大日本婦人衞生會高崎支會規則（明治三十五年四月創立）

●第一條　當支會は大日本婦人衞生會に屬し汎く婦人をして人生の健康を保持する方法を講究し衞生上の智識を開發せしめ随て社會全般の幸福を增進するを目的とす ●第二條　當支會は大日本婦人衞生會高崎支會と稱し事務所を高崎市寄居町五十番地に置く ●第三條　當支會は高崎地方在住の本會々員と支會限りの支會員とを以て組織す ●第四條　本會又は支會の會員たらんとする者は住所姓名及び會員の種類を詳記し三箇月分以上の會費を添へ申込まるべし ●第五條　當支會に學術其の他の裨益を與へらるゝ人士を推して講師又は篤志賛助員となす ●第六條　當會員にして轉居死亡又は退會の時は速に其旨事務所に通報せらるべし ●第七條　支會に左の役員を置く會長一名副會長一名幹事六名評議員十二名 ●第八條　役員は會員中より公撰し會長副會長は役員中より互撰す又幹事評議員は役員中より會長之を指名す但役員の任期を一箇年とし再撰するを得 ●第九條　本會の特別賛成員を定員外の評議員とす ●第十條　當支會は毎月一回講話會を開き毎年一回總會を開く者とす總會に於ては講話の外役員の改撰會務の報告等をなす ●第十一條　會員及賛成員の家族並に篤志賛成員は集會に參列するを得但時宜により男子の參列は謝絕することあるべし ●第十二條　本會々員は本會費の外別に支會費を要せず支會限りの會員は支會費として一箇月金五錢を出す者とす ●第十三條　總て會費の徴收は集會の席上に於てするを例とす但三ヶ月分以上前納すべし ●第十四條　支會の所有金は支會の名義を以て銀行に預け置くものとす ●第十五條　會員又は會員外より金員物品の寄附ある時は之を受納す ●第十六條　本會所有の金員物品を慈善事業等に使用せんとするときは衆議に諮るものとす ●第十七條　會員は服裝其他を質素にし集會の節は時間等を確實に履行すべし ●第十八條特に此規則に掲げざる者は本會の規則を準用す

●事務所高崎市寄合町五十番地

高崎支會

明治二十六年四月四日第三種郵便物認可

私立大日本婦人衛生會徽章規程

第一條　大日本婦人衛生會會員は其會員たることを表するため左の徽章を用ゆ





○本會徽章料左の如し

○通常會員章

第參號　メッキ製拾貳錢、送費六錢

第貳號　正銀製四拾錢、送費六錢

○終身及特別會員章

第壹號　七拾錢（黒塗箱入）送費九錢
六拾錢（桐箱入）送費六錢

第二條　會員章は本會並に支會の集會に出席する場合は勿論襟止兼用の便あるを以て成るべく平素佩用して廣く本會の普及を圖るを要す

第三條　本會徽章は右の實價を以て會員に頒つ

○入會注意

○御入會の際は三ヶ月以上の會費前納にて申込まるべし會員章は上段記載の實價にて御頒ち申候へども送費とも必らず御前納のこと●東京府下に限り毎月雜誌の配達を兼れ會費領收人を差出すべしと雖も郡部の方は地方會員の部として領收人差出不申候但東京府下の會員にても會費前納せられ合せて郵送料なし御納相成候へば雜誌發行次第直ちに郵送可致候●追て支會々員は支會へ會費御納付のことゝす●會費は郵便小爲替にて本會事務所々在の郵便局（東京麹町區富士見町郵便局）宛振出しあるべし●會費受領證を要する節は送費として郵券一錢五厘封入せられたし●轉居せられたるときは其の旨必らず本會事務所宛通知せらるべし

○會員御紹介

下され候御方には其人數丈の本會雜誌を進呈す

廣告料　一頁五圓半頁其二分一以下同之　●特別廣告一頁拾四圓半頁其二分一以下同之

本誌一部定價貳拾錢

明治四十二年八月十六日印刷
同年八月二十日發行
婦人衛生雜誌第二百三十七號
（毎月一回二十日發行）

發行所　東京市麹町區富士見町二丁目三十二番地
私立大日本婦人衛生會
（振替貯金口座東京一〇六〇〇番）

東京市本郷區駒込追分町三十番地
編輯兼發行者　莊司秋次郎

東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地
印刷者　今井甚太郎

印刷所　東京市本郷區駒込千駄木林町百七十二番地　杏林舍